

芸術学部カリキュラム・マップ (2011年度以降入学生)

授業科目		単位数		授業方法	学期		担当教員名	対象年次	単位修得方針																									
		必修	選択		前期	後期			A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3												
作品研究Ⅰ	(日本語・制作)	2		講	○			4年次	○							○																		
	(日本語・制作)																																	
	(日本語・制作)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
卒業制作	(日本語・制作)	6		実	○			4年次																										
	(日本語・制作)																																	
	(日本語・制作)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
	(英語)																																	
プロダクトデザインⅠ	2	講	○		横林 新	2年度以上			○																									
インテリアデザインⅠ	2	講	○		藤本 康介	2年度以上				○																								
ビジュアルデザインⅠ	2	講	○		辻 真由	2年度以上			○																									
応用図	2	講			竹内 オサム	2年度以上																												
商品企画Ⅰ	2	講			横林 新	2年度以上																												
商品計画Ⅰ	2	講			木田 寛	2年度以上																												
デザイン図解Ⅰ	2	講			森本 寛	2年度以上			○																									
メディア技術Ⅰ	2	講			三宅 寛介	2年度以上					○																							
アニメーションⅠ	2	講			下野 紀子	2年度以上			○																									
インターフェイスⅠ	2	講			伊田 正樹・中嶋 空	2年度以上																												
キャラクターデザインⅠ	2	講			大西 空澄	2年度以上																												
ゲームデザインⅠ	2	講			上野 哲志	2年度以上																												
電子工学基礎Ⅰ	2	講	実		森 義明	2年度以上																												
情報システムⅠ	2	講			木田 寛	2年度以上																												
メディアプロデュースⅠ	2	講			伊田 真巳子	2年度以上					○																							
商品計画Ⅱ	2	講			藤本 康介	2年度以上			○																									
商品企画Ⅱ	2	講			大西 空澄	2年度以上																												
ランドスケープⅠ	2	講			阪上 英策	2年度以上				○																								
観光地景マーケティングⅠ	2	講			阪上 英策	2年度以上						○																						
イベントプロデュースⅠ	2	講			森田 政典	2年度以上					○																							
観光産業Ⅰ (大学コンソーシアム京都地区連携科目)	2	講			森田 政典	2年度以上					○		○																					
デザイン基礎Ⅰ	2	講			森本 寛	2年度以上																												
デザイン基礎ⅡⅠ	2	講			森本 寛	2年度以上																												
デザイン基礎ⅡⅡ	2	講			森本 寛	2年度以上																												
デザイン基礎Ⅲ	2	講			森田 政典	2年度以上																												
デザイン基礎Ⅳ	2	講			森田 政典	2年度以上																												
デザイン基礎実習Ⅰ	4		実		○	三宅 寛介・横林 新・青山 祐明 新・長尾川 博士・西本 一朗 森田 政	1年次																		○	○								
デザイン基礎実習Ⅱ	4		実		○	三宅 寛介・青山 祐明 めぐみ・江崎 洋・中村 裕子 長尾川 博	1年次					○	○												○	○								
デザイン基礎実習Ⅲ	2		実		○	佐藤 文郎・江利 新市 森田 政典 坂上 英策	1年次					○			○										○	○								
デザイン基礎実習Ⅳ	2		実		○	佐藤 文郎・江利 新市 森田 政典 坂上 英策	1年次						○			○									○	○								

芸術学部カリキュラム・マップ (2011年度以降入学生)

授業科目	単位数		授業方法	学期		担当教員名	対象年次	単位修得方針																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	必修	選択		前期	後期			A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
デザイン基礎実習Ⅲ	グラフィックデザイン基礎 グラフィックデザイン基礎 ウェブデザイン基礎 イラストレーション基礎 印刷デザイン基礎実習Ⅲ	4	実	○		水田 豊・佐 藤・江村 裕市 藤本 真介・藤村 裕・竹内ササム 下西 紀子・竹内 秀典・永田 智史 前田 麻志・松浦 孝之・矢部 重樹 高成 真代子	2年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									</

芸術学部カリキュラム・マップ (2011年度以降入学生)

対象学部	科目区分	授業科目	単位数	授業方法	学期		担当教員名	履修年次	学位修得方針														
					前期	後期			A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3	
芸術学部	教職の基礎等に関する科目	教職論	2	講	○		関根 六友樹門	1年度以上						○				○					
		教育原理	2	講		○	藤川 保夫	1,2年度				○											
	教育の基礎知識に関する科目	教育心理学	2	講	○		清嶋 裕子	1,2年度				○											
		教育経営学	2	講		○	関根 六友樹門	3年度以上				○		○									
	教育課程及び指導法に関する科目	教育の過程と方法	2	講	講		藤田 康正	2年度以上				○											
		普通科教育法Ⅰ	2	講	○		北原 博	2年度							○			○				○	
		普通科教育法Ⅱ	2	講		○	北原 博	2年度							○			○				○	
		普通科教育法Ⅲ	2	講	○		北原 博	3年度							○				○			○	
		普通科教育法Ⅳ	2	講		○	北原 博	3年度							○				○			○	
		道徳教育法(小・中学校必修)	2	講		○	藤川 保夫	1年度以上				○								○			
		特別活動法	2	講	○		関根 六友樹門	2年度以上											○				
		教育方法	2	講		講	藤田 康正	2年度以上				○								○			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論 (進路指導を含む)	2	講		○	関根 六友樹門	2年度				○											
		教育相談論 (カウンセリングを含む)	2	講		○	河本 敏男	3年度				○											
	総合演習	総合演習 (2009年度以降入学生のみ)	2	講				3年度															
	教職実践演習	教職実践演習(中・高) (2010年度以降入学生のみ)	2	講				4年度															
	教育実習	教育実習Ⅰ	2	実	○		北原 博	3年度以上				○								○			○
		教育実習Ⅱ	2	実	○		北原 博	3年度以上				○									○		○
		事前・事後の指導	1	講		○	北原 博	3年度以上				○									○		○
芸術学部	専門科目	生涯学習概論	2	講		○	関根 六友樹門	2年度以上				○								○			
		博物館概論	2	講	○		常野 明	2年度以上									○	○					
		博物館経営・情報論	2	講	○		関根 六友樹門	3年度以上				○											
		博物館資料論	2	講		○	関根 六友樹門	2年度以上				○											
		博物館実習	3	実		○	常野 明 神橋 誠一	3年度以上				○									○		
		視覚教育メディア論 (2010年度以降入学生のみ)	2	講		○	常野 明	2年度以上														○	
		教育原理	2	講		○	藤川 保夫	1,2年度				○									○		

②平成 25 年度短期大学部美術学科カリキュラム・マップ

平成24年度 短期大学部美術学科 カリキュラム・マップ

科目 区分	授業科目	単位数		授業 方法	学期		担当教員名	対象年次	単位履修方針								
		必修	選択		前期	後期			A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	D1	D2
人間と社会	導入 ★概要ゼミ	2		講	④	○					○				○		
	◆人間論		2	講		○	柴崎 隆子			○							
	◆芸術学		2	講		○	佐藤 文郎				○				○		
	文芸		2	講	○		佐藤 文郎			○							
	運動文化論A(Y)(*)		2	講	○		中森 洋子			○							
	運動文化論B(Y)(*)		2	講	○		中森 洋子			○							
	日常生活の法儀		2	講	○		関水 雄市				○						
	くらしと経済(Y)		2	講			真鍋 裕章				○						
	社会学(Y)		2	講	○		岡本 新也				○						
	心理学		2	講	○		藤 智恵				○						
	◆心理学(心理学・青年心理学)		2	講		○	藤 智恵				○						
	健康と運動(Y)		2	講		○	増田 洋				○			○			
	自然と人間		2	講	○		神松 泰弘				○						
	◆文化人類学		2	講		○	鈴木 伸二	2年次以上			○						
	日本文化論		2	講		○	大森 正夫			○							
	健康・スポーツ科学A		2	講	②		中森 洋子									○	
	健康・スポーツ科学B		2	講		②	中森 洋子									○	
	◆生涯スポーツ講習		1	講	○	○	増田 洋	2年次以上							○	○	
					○	②	中森 洋子								○	○	
	文筆表現A		2	講	○		柴崎 隆子										○
	文筆表現B		2	講		○	佐野 仁志										○
	コミュニケーション論(Y)		2	講	○		佐野 仁志							○		○	
	コミュニケーション論ゼミ		2	講		○	佐野 仁志							○		○	
言語と表現	英語A1(コミュニケーション)		1	講	○		佐野 仁志									○	
	英語A2(コミュニケーション)		1	講		○	佐野 仁志									○	
	英語B1(文化)(Y)(*)		1	講			佐野 仁志									○	
	英語B2(文化)(Y)(*)		1	講			佐野 仁志									○	
	英語C1(文学)(Y)(*)		1	講	○		マイケル リップル									○	
	英語C2(文学)(Y)(*)		1	講		○	マイケル リップル									○	
	英語A1(コミュニケーション)(Y)		1	講	○		佐野 仁志									○	
	英語A2(コミュニケーション)(Y)		1	講		○	佐野 仁志									○	
	英語B1(文学)(Y)(*)		1	講	○		佐野 仁志									○	
	英語B2(文学)(Y)(*)		1	講		○	佐野 仁志									○	
	◆仏語ⅠA-1		1	講		○	佐藤 文郎									○	
					○		山本 友紀									○	
					○		ジョアン グレニエ									○	
	◆仏語ⅠA-2		1	講		○	佐藤 文郎									○	
					○		山本 友紀									○	
					○		ジョアン グレニエ									○	
	◆仏語ⅠB-2		1	講	○		ジョアン グレニエ									○	
	◆仏語ⅠB-2		1	講		○	ジョアン グレニエ									○	
芸術の基礎		2	講	○		大森 正夫		○	○								
芸術の心理学		2	講	○		清瀬 裕子				○							
芸術の世界		2	講	○		西山 健史		○									
デザインの世界		2	講	○		森本 茂		○		○							
マンガの世界		2	講		○	竹中 らんこ		○		○							

平成24年度 短期大学部美術学科 カリキュラム・マップ

基礎	授業科目	単位数		授業方法	学期		担当教員名	対象年次	学位授与方針								
		必修	選択		前期	後期			A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	D1	D2
	◆ユニバーサルデザイン論		2	講	○		坂田 尚彦				○				○		
	色彩論		2	講	○		森田 麻由子			○						○	
	パフォーマンスアートA(S)(*)		2	演		△	中森 洋子				○						○
	パフォーマンスアートB(S)(*)		2	演		○	中森 洋子				○						○
	情報基礎演習ⅠA(Mac:画像処理)		1	演	③	②	大畑 真也 他									○	
	情報基礎演習ⅠB(Win:画像処理)		1	演	○	○	西山 健史									○	
	情報基礎演習Ⅱ		1	演	②	②	大畑 真也 他									○	
コミュニケーション	美術と批評		2	講		○	柴崎 陽子			○							
	アイデアとプレゼンテーション		2	講	③	○	坂田 尚彦・高橋 豊・神谷 三郎・大畑 真也 藤本 秀樹・森山 幸子 安斎 レオ					○					
	造形造形演習(V)		2	演	○		北村 正己								○		
	キャラクターコンテンツ論		2	講	○		安斎 レオ									○	
美術	◆情報基礎論		2	講	○		藤本 豊				○	○		○			
	日本美術史		2	講		○	西山 健史			○							
	◆東洋美術史		1	講		○	佐々木 正子			○							
	西洋美術史		2	講		○	芳野 明		○	○							
デザイン	◆現代美術論		2	講		○	松尾 真		○								
	◆デザイン史		2	講	○		藤田 治彦			○							
	ビジュアルコミュニケーション論 (大学コンソーシアム京都単位互換提携科目)		2	講		○	坂田 尚彦			○							
	イラストレーション論		2	講	○		藤本 秀樹・神谷 三郎・大畑 真也 坂田 尚彦			○							
	絵本論(V)		2	講		○	花田 陽子		○								
	デザイン思考法(V)		2	講		○	藤本 豊					○					
	デジタルドローイング		1	演		△	藤本 秀樹・大畑 真也									○	
	◆プロダクトデザイン論		2	講	○		橋本 拓	2年次以上			○						
◆商品企画論		2	講		○	橋本 拓	2年次以上			○			○				
◆デザイン用語論		2	演		○	藤本 豊	2年次以上	○									
マンガ	マンガ史(V)		2	講	○		太郎 吉野		○	○							
	マンガ鑑賞論		2	講	○		喜多野 土竜									○	
	マンガシナリオ論		2	講		○	太郎 吉野									○	
京都の美術	都の美を語る(V)(S)		2	演		○	西山 健史			○							
	◆京都文化論		2	講		○	小林 保夫			○							
	生活文化の造形		2	講		○	矢ヶ崎 勝太郎			○							
	京の美意識(V)(S)		2	講		○	三好 郁朗			○							
キャリアアップ・ブラーニング	検定英語A(Y)(S)		1	演	○		藤田 洋一									○	
	検定英語B(Y)(S)		1	演		○	藤田 洋一									○	
	キャリアアップ・ブラーニング		2	講	○	○	坂田 尚彦 他						○				
	◆インターンシップ研修		2	演	集		坂田 尚彦							○	○		
	◆コンピュータ基礎実習		1	実	②	②	西山 健史									○	

平成24年度 短期大学部美術学科 カリキュラム・マップ

科目区分	授業科目		単位数	必修	選択	授業方法	学期		担当教員名	対象年次	学位授与方針									
							前期	後期			A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	D1	D2	
伝統芸術	◆書道基礎Ⅰ		2				○		庄司 信弘			○								
	◆書道基礎Ⅱ		2					○	庄司 信弘			○								
	書道Ⅰ		2	演		③			辻井 ミカ・中嶋 康子・林 基子									○		
	書道Ⅱ		2	演			③		辻井 ミカ・中嶋 康子・林 基子									○		
	書道Ⅲ		2	演		②			中尾 光子・岡本 和子	2年次								○		
	書道Ⅳ		2	演			②		中尾 光子・岡本 和子	2年次								○		
	書道Ⅰ-1		1	演		○			小西 浩太									○		
	書道Ⅰ-2		1	演			○		小西 浩太									○		
	書道Ⅱ-1		1	演		○			小西 浩太	2年次								○		
	書道Ⅱ-2		1	演			○		小西 浩太	2年次								○		
フィールド	国内美術研修		1	実		○			真坂 昭夫											
	海外美術研修		1	実																
	海外美術演習(ギリシャ)		2	演		■			牧野 文昭				○							
	海外美術演習(イギリス)		2	演		■			上田 香		○	○						○		
	◆ボランティア演習		2	演		○			関口 六左衛門				○		○		○			
	人体デッサン		2	演		○			清水 豊									○		
	フィギュア制作		2	演		○			安斎 レオ									○		
美術分野	コピーライティング		2	演		○			杉村 雄子							○				
	人体クロッキー		2	演			○		柳田 均									○		
	デジタル写真		2	演			○		宇佐美 安									○		
	Webデザイン		2	演			○		田畑 俊次									○		
	美術演習Ⅰ	日本画	2	演		○			北村 正己	1年次									○	
		洋画							高谷川 博士										○	
		現代アート							高谷川 博士										○	
	美術演習Ⅱ	日本画	2	演			○		黒住 拓	2年次					○				○	
		洋画							中井 浩史						○				○	
		現代アート							中井 浩史						○				○	
美術演習Ⅲ	日本画	2	演		○			北村 正己	2年次					○				○		
	洋画							黒澤 賢雄						○				○		
	現代アート							黒澤 賢雄						○				○		
美術演習Ⅳ	日本画	2	演			○		黒住 拓	2年次					○				○		
	洋画							黒澤 賢雄						○				○		
	現代アート							黒澤 賢雄						○				○		
デザイン分野	デザイン演習Ⅰ	グラフィックデザイン・広告デザイン	2	演		○			黒澤 賢	1年次									○	
		イラストレーション・絵本・アニメーション							神谷 三郎・安部 雅幸										○	
		暮らしのグッズデザイン							森山 幸子										○	
	デザイン演習Ⅱ	グラフィックデザイン・広告デザイン	2	演			○		黒澤 賢	2年次									○	
		イラストレーション・絵本・アニメーション							神谷 三郎・安部 雅幸										○	
		暮らしのグッズデザイン							坂田 尚家										○	
	デザイン演習Ⅲ	グラフィックデザイン・広告デザイン	2	演		○			坂田 尚家	2年次					○				○	
		イラストレーション・絵本・アニメーション							黒木 繁樹・大畑 真也						○				○	
暮らしのグッズデザイン								黒木 一紀						○				○		
デザイン演習Ⅳ	グラフィックデザイン・広告デザイン	2	演			○		神山 賢次	2年次					○				○		
	イラストレーション・絵本・アニメーション							黒木 繁樹・大畑 真也						○				○		
	暮らしのグッズデザイン							森山 幸子						○				○		

平成24年度 短期大学部美術学科 カリキュラム・マップ

科目 区分	授業科目	単位数		授業 方法	学期		担当教員名	対象年次	単位授与方針									
		必修	選択		前期	後期			A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	D1	D2	
マンガ 分野	マンガ演習Ⅰ	2		講	○		竹中 らんこ・徳田 俊之	1年次								○		
	マンガ演習Ⅱ	2		講		○	徳田 俊之・黒山 保子									○		
	マンガ演習Ⅲ	2		講	○		電巻 竜次・黒山 保子	2年次				○						
	マンガ演習Ⅳ	2		講		○	竹中 らんこ・電巻 竜次					○	○	○			○	
美術 分野	美術実習Ⅰ	日本画	4	実	○		北村 正己・村林 典博・河本 万寿子	1年次								○		
		洋画					渡邊 賢隆・横田 尚・青 真子								○			
	日本画	4	実		○	中井 浩史・和泉 尚洋・夏 真子									○			
	洋画					北村 正己・村林 典博・土手 朗英								○				
	日本画	4	実	○		渡邊 賢隆・青 真子	2年次				○							
	洋画					黒山 保子・黒山 保子・和泉 尚洋								○				
	日本画	4	実	○		土手 朗英・マツダ ジュンイチ					○							
	洋画					渡邊 賢隆・中井 浩史					○							
日本画	4	実		○	黒山 保子・黒山 保子・和泉 尚洋				○									
洋画					土手 朗英・清水 瑞				○	○	○				○	○		
デザイン 分野	デザイン実習Ⅰ	グラフィックデザイン・広告デザイン	4	実	○		高濱 豊・坂田 崇彦	1年次								○		
		イラストレーション・絵本・アニメーション					黒本 秀樹・大畑 真也・岡田 毅志								○			
		暮らしのグッズデザイン					西山 誠・徳内 彰・安井 健二								○			
	グラフィックデザイン・広告デザイン	4	実		○	西山 幸子・加藤 真子									○			
	イラストレーション・絵本・アニメーション					古藤 寿見・柳瀬 邦江								○				
	暮らしのグッズデザイン					高濱 豊・坂田 崇彦								○				
	デザイン実習Ⅱ	グラフィックデザイン・広告デザイン	4	実		○	黒本 秀樹・大畑 真也・岡田 毅志								○			
	イラストレーション・絵本・アニメーション	西山 誠・徳内 彰・安井 健二											○					
	暮らしのグッズデザイン	西山 幸子・野野 りつこ											○					
	デザイン実習Ⅲ	グラフィックデザイン・広告デザイン	4	実	○		高濱 豊・田中 誠・吉川 加津夫	2年次				○						
	イラストレーション	黒本 秀樹・大畑 真也												○				
	絵本	黒本 ひづる・宮原 厚												○				
	アニメーション	神谷 三郎												○				
	暮らしのグッズデザイン	千代土 義昭・安井 健二								○								
デザイン実習Ⅳ	グラフィックデザイン・広告デザイン	4	実		○	西山 幸子・野野 りつこ					○							
イラストレーション	古藤 寿見・田中 幹人												○					
絵本	高濱 豊・坂田 崇彦・杉村 穂子												○	○				○
アニメーション	黒本 秀樹・大畑 真也											○	○				○	
マンガ	マンガ実習Ⅰ	4		実	○		竹中 らんこ・太田 博 文典	1年次								○		
	マンガ実習Ⅱ	4		実		○	電巻 竜次・太田 博 文典									○		
							竹中 らんこ・太田 博 文典									○		
							電巻 竜次・太田 博 文典									○		

平成24年度 短期大学部美術学科 カリキュラム・マップ

区分	マンガ実習Ⅲ	4		実	○		竹中 らんこ・喜多野 主電 堀 抄子・黒山 保子	2年次				○					○
	マンガ実習Ⅲ	4		実		○	竹中 らんこ・喜多野 主電 堀 抄子・黒山 保子					○					○

③平成 24 年度短期大学部専攻科カリキュラム・マップ

平成24年度 短期大学部専攻科 カリキュラム・マップ

科目区分	授業科目	単位数		授業方法	学期		担当教員名	対象年次	学習成果			
		必修	選択		前期	後期			A	B	C	D
芸術	芸術基礎研究		2	講	○		鈴木 創士		○			
	芸術心理学研究		2	講	○		清道 裕子		○			
	色彩研究		2	講	○		佐々木 正子		○			
	造形基礎研究(Y)		2	講	○		岩崎 隆子				○	
	芸術の現象学(Y)		2	講	○		大森 正夫		○			
	空間論研究(Y)		2	講		○	大森 正夫		○			
	創造の生活Ⅰ(★)		2	講	○		森本 悠				○	
	創造の生活Ⅱ(★)		2	講		○	森本 悠				○	
	美術教育(Y)		2	講		○	北沢 博				○	
	国内美術研究		1	実	■		真坂 研夫					
	海外美術研究		1	実								
	海外美術研究演習(ギリシャ)		2	演	■		佐藤 文郎		○			
	海外美術研究演習(イギリス)		2	演	■		上田 香		○			
美術	西洋・日本美術研究A		2	講	○		佐々木 正子		○			
	西洋・日本美術研究B		2	講		○	佐々木 正子		○			
	西洋美術研究A		2	講	○		須野 明		○			
	西洋美術研究B		2	講		○	黒山 守正		○			
	現代美術研究(Y)大学コンソーシアム京都単位互換科目		2	講		○	岩崎 隆子		○			
	美術史研究(Y)		2	講	■		清水 瑞		○			
	美術特論A		2	講	○		佐々木 正子		○			
	美術特論B		2	講		○	中井 清孝・須野 明		○			
	美術特論C		2	講		○	渡邊 賢雄		○			
	美術特演		2	演	○		中井 清孝				○	
	デザイン特論A		2	講	○		坂田 尚家		○			
	デザイン特論B		2	講		○	森岡 誠		○			
デザイン	デザイン特論A		2	演	○		三宅 寛介					○
	デザイン特論B(Y)		2	演	○		須野 義則			○		
	デザイン特論C		2	演		○	坂田 尚家				○	
	マンガ特論A		2	講	○		竹中 らんこ		○			
マンガ	マンガ特論B		2	講		○	竹中 らんこ		○			
	マンガ特演		2	演	○		竜巻 竜次					○
芸術表現	表現Ⅰ		2	演	③		辻井 ミカ・中嶋 廣子・林 基子					○
	表現Ⅱ		2	演		③	辻井 ミカ・中嶋 廣子・林 基子					○
	表現Ⅲ		2	演	②		中尾 光子・岡本 和子					○
	表現Ⅳ		2	演		②	中尾 光子・岡本 和子					○
	表現Ⅴ		2	演	○		高砂 由利子					○
	表現Ⅵ		2	演		○	高砂 由利子					○
	表現Ⅶ		2	演	○		高砂 由利子					○
	表現Ⅷ		2	演		○	高砂 由利子					○
	●指定英語A		1	演	○		藤田 洋一					○
	●指定英語B		1	演		○	藤田 洋一					○
	●中国語Ⅰ～Ⅱ(Ⅴ)		1	演	○		緒 形					○
	●中国語Ⅰ～Ⅱ(Ⅴ)		1	演		○	緒 形					○
	●中国語Ⅱ～Ⅲ(Ⅴ)		1	演	○		緒 形					○
	●中国語Ⅱ～Ⅲ(Ⅴ)		1	演		○	緒 形					○

平成24年度 短期大学部専攻科 カリキュラム・マップ

他 大 学 履 修 科 目 等

	授業科目	単位数		授業方法	学期		担当教員名	対象年次	学習成果			
		必修	選択		前期	後期			A	B	C	D
他 大 学 履 修 科 目 等	●パフォーマンスアートA(SX*)		2	講			中森 洋子					○
	●パフォーマンスアートB(SX*)		2	講		○	中森 洋子					○
	●都の美を語る(YXS)		2	講		○	西山 健史		○			
	●生命科学		2	講		○	木多 忠紀		○			
	●京の美意識		2	講		○	三好 紀郎		○			
	●日本美術文化史		2	講		○	矢々崎 善太郎		○			
	●西洋美術文化史		2	講		○	大森 正夫		○			
	●京都文化論		2	講		○	小林 保夫		○			
	●京都文化史		2	講	○		小林 保夫		○			
	●造形芸術論		2	講	○		秀野 明		○			
	●造形理論Ⅰ		2	講	○		田所 信弘					○
	●造形理論Ⅱ		2	講		○	田所 信弘					○
	●造形Ⅰ-1		1	講	○		小西 浩太					○
	●造形Ⅰ-2		1	講		○	小西 浩太					○
	●造形Ⅱ-1		1	講	○		小西 浩太					○
	●造形Ⅱ-2		1	講		○	小西 浩太					○
	●美術史論(西洋)		2	講	○		小林 留美		○			
	●美術史論(日本)		2	講		○	小林 留美		○			
	●東洋美術史研究Ⅰ		2	講	○		井山 薫		○			
	●東洋美術史研究Ⅱ		2	講		○	佐々木 正子			○		
	●美術と思想		2	講		○	鈴木 創士		○			
	●工芸概論		2	講	○		上羽 陽子		○			
	●絵巻芸術論		2	講		○	伊藤 新祐		○			
	●絵巻文化史		2	講	○		伊藤 新祐		○			
	●先端芸術・メディアアート研究(S)		2	講	○		松本 恭寛・倉山 祐司		○			
	●観光地域マーケティング論		2	講	○		坂上 英重		○			
	●イベント・プロデュース論		2	講	○		森田 政典					
	●観光施設デザイン論		2	講		○	坂上 英重		○			
	●世界遺産論(大学コンソーシアム京都単位互換授業科目)		2	講		○	真城 研次					
	●エンターテインメント論		2	講			森 正孝					
	●ランドスケープ論(*)		2	講			坂上 英重		○			
	●デザイン論Ⅰ		2	講	○		森本 茂		○			
	●デザイン論Ⅱ		2	講		○	森本 茂		○			
	●インターンシップ研修		2	講							○	
	●キャリアプランニング		2	講	○	○	坂田 昌彦 他				○	
	●ボランティア演習		2	講	○		関口 六左衛門				○	
美 術	美術研究Ⅰ	6		実	○		北村 正己・瀬澤 寛博 中井 浩史・松尾 真	1年次				○
	美術研究Ⅱ	6		実		○	北村 正己・瀬澤 寛博 中井 浩史・松尾 真	1年次				○
	美術研究Ⅲ	6		実	○		北村 正己・瀬澤 寛博 中井 浩史・松尾 真	2年次				○
	美術研究Ⅳ	6		実		○	北村 正己・瀬澤 寛博 中井 浩史・松尾 真	2年次		○		○

平成24年度 短期大学部専攻科 カリキュラム・マップ

	授業科目	単位数		授業方法	学期		担当教員名	対象年次	学習成果			
		必修	選択		前期	後期			A	B	C	D
デザイン	デザイン研究Ⅰ	6		実	○		藤本 秀樹・高濱 豊・森山 幸子・神谷 三郎・大畑 真也・藤本 ひづる 田中 美行	1年次				○
	デザイン研究Ⅱ	6		実		○	藤本 秀樹・高濱 豊・森山 幸子・神谷 三郎・大畑 真也・田中 聡 森岡 誠	1年次				○
	デザイン研究Ⅲ	6		実	○		藤本 秀樹・高濱 豊・森山 幸子・神谷 三郎・大畑 真也・藤本 ひづる 田中 美行	2年次				○
	デザイン研究Ⅳ	6		実		○	藤本 秀樹・高濱 豊・森山 幸子・神谷 三郎・大畑 真也・田中 聡 森岡 誠	2年次		○		○

④平成 24 年度芸術学部学生授業アンケート集計表

科目名	課題別	初等	質問(1)										質問(2)																							
			1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均				
造形基礎実習Ⅱ	日本画	19	1	2	3	4	5	6	12	4.58	1	2	3	4	5	6	12	4.58	1	2	3	4	5	6	12	4.58	1	2	3	4	5	6	12	4.58		
	油画	1						6	8	4.40	1						6	8	4.40	1						6	8	4.40	1					6	8	4.40
	版画	5						1	4	4.60	1						1	4	4.60	1						1	4	4.60	1					1	4	4.60
	工芸(陶芸)	3			1			1	4	4.50	1						1	4	4.50	1						1	4	4.50	1					1	4	4.50
	工芸(染織)	4						3	1	4.25	1						3	1	4.25	1						3	1	4.25	1					3	1	4.25
	メディアアート	1								5.00	1								5.00	1									5.00	1						
造形基礎実習Ⅳ	小計	1	0	1	2	16	27	4.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本画(制作・伝統制作)	5						1	5	4.83	1						1	5	4.83	1						1	5	4.83	1					1	5	4.83
	日本画(古画/後援基礎)	8			3			3	3	4.00	1						3	3	4.00	1						3	3	4.00	1					3	3	4.00
	油画	1						3	3	4.50	1						3	3	4.50	1						3	3	4.50	1					3	3	4.50
	版画	1						1	5	5.00	1						1	5	5.00	1						1	5	5.00	1					1	5	5.00
	彫刻	6			2			3	4	4.20	1						3	4	4.20	1						3	4	4.20	1					3	4	4.20
造形専門実習Ⅱ	工芸(陶芸)	2				1			1	4.50	1						1	4.50	1							1	4.50	1							1	4.50
	工芸(染織)	3				1			2	4.67	1						2	4.67	1							2	4.67	1							2	4.67
	メディアアート	2							1	3.50	1						1	3.50	1							1	3.50	1							1	3.50
	小計	2	0	0	0	0	18	30	4.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本画(制作)	5			2			2	4	4.00	1						2	4	4.00	1						2	4	4.00	1					2	4	4.00
	日本画(伝統制作)	3			1			2	4	4.67	1						2	4	4.67	1						2	4	4.67	1					2	4	4.67
作品研究Ⅱ	日本画(古画/自由描写制作)	2							4	4.50	1						4	4.50	1							4	4.50	1							4	4

⑤平成 24 年度短期大学部学生授業評価アンケート集計表

[illegible]

⑥平成 24 年度講義系科目授業評価アンケート集計表（前期）

講義関係授業科目アンケート

2012年度 前期

分 類：大学全体

1回生	2回生	3回生	4回生	その他
1783	1344	777	465	22

受講者数 6168 名
回答者数 4513 名

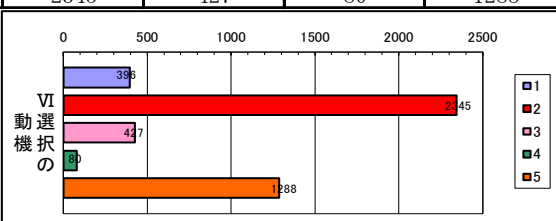
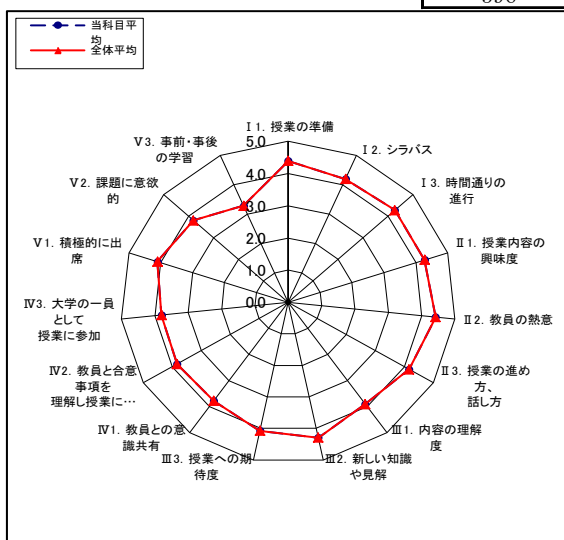
大学（造形学科）	1149	造形基礎	81	日本画	362	油絵	382	版画	112	彫刻	106	メディアアート	44	工芸	162
メディアデザイン学科	463														
観光デザイン学科	311														
デザイン学科(1,2回生のみ)	1009	メディアデザイン	301	イラストレーション	454	生活デザイン	220	観光デザイン	131						
短大部（美術学科）	1067	美術分野	242	デザイン分野	740	マンガ分野	202								
専攻科		美術専攻	53	デザイン専攻	91										

設問項目	そう思う	→	ふつう	→	そう 思わない	当科目 平均	全体平均
【Ⅰ】準備・計画度	5	4	3	2	1		
1. 担当教員は、授業の準備を十分に行っていた。	2636	1093	719	54	9	4.4	4.4
2. シラバスに記載された目的は授業の中で明確に伝わった。	2102	1316	967	93	26	4.2	4.2
3. 時間通りに始まり進行していた。	2455	1035	847	122	38	4.3	4.3
【Ⅱ】内容・指導法							
1. 授業の内容は、興味深く受け止められた。	2298	1329	730	115	35	4.3	4.3
2. 担当教員は熱意を持って授業をしていた。	2648	1170	619	52	17	4.4	4.4
3. 授業の進め方、話し方、トピックは良好であった。	2117	1285	857	174	62	4.2	4.2
【Ⅲ】達成度・成果							
1. 内容は十分理解できた。	1456	1565	1153	267	65	3.9	3.9
2. 新しい知識や見解が得られた。	2317	1361	697	114	17	4.3	4.3
3. この授業への期待は充足された。	1886	1345	1035	161	63	4.1	4.1
【Ⅳ】学習者による自己チェック(試験的追加項目)							
1. 教育目的に関して教員との意識共有ができていた。	1268	1360	1573	227	71	3.8	3.8
2. 教育内容・方法について教員との合意事項を理解し、授業に参加し	1344	1339	1577	186	53	3.8	3.8
3. 大学という共同体の一員としての意義を持って授業に参加できた。	1321	1235	1679	166	58	3.8	3.8
【Ⅴ】履修への積極度							
1. 積極的によく出席した。	2039	1205	980	244	32	4.1	4.1
2. 課題に意欲的に取り組んだ。	1320	1326	1549	238	52	3.8	3.8
3. 事前(予習)・事後(復習)の学習に努めた。	701	1003	1916	601	268	3.3	3.3

【Ⅵ】選択の動機 ※複数選択可

1: 単位がとりやすそう2: 授業内容に興味を持った3: 担当教員の授業に興味を持った4: 友人・先輩などに勧められた5: 卒業単位の都合

1	2	3	4	5
396	2345	427	80	1288



	当科目平均	全体平均
【Ⅰ】準備・計画度	4.3	4.3
【Ⅱ】内容・指導法	4.3	4.3
【Ⅲ】達成度・成果	4.1	4.1
【Ⅳ】学習者による自己チェック	3.8	3.8
【Ⅴ】履修への積極度	3.7	3.7

京都嵯峨芸術大学

⑦平成 24 年度講義系科目授業評価アンケート集計表（後期）

講義関係授業科目アンケート

2012年度 後期

分 類：大学全体

1回生	2回生	3回生	4回生	その他
1575	1226	725	398	9

受講者数	5649	名
回答者数	4020	名

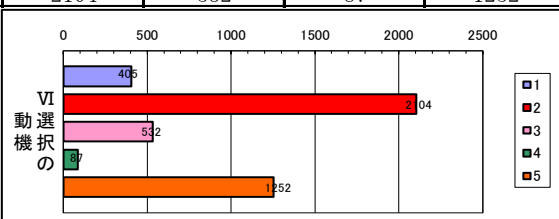
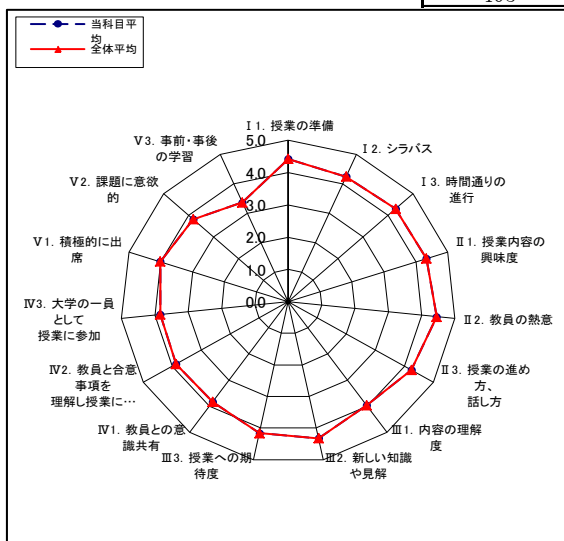
入学院(芸術研究科)	17	分野・系・専攻													
大学(造形学科)	1060	造形基礎	87	日本画	332	油絵	363	版画	99	彫刻	103	メディアアート	29	工芸	144
メディアデザイン学科	374														
観光デザイン学科	234														
デザイン学科(1,2回生のみ)	926	メディアデザイン	258	イラストレーション	434	生活デザイン	200	観光デザイン	124						
短大部(美術学科)	926	美術分野	249	デザイン分野	617	マンガ分野	144								
専攻科		美術専攻	55	デザイン専攻	87										

設問項目	そう思う	→	ふつう	→	そう 思わない	当科目 平均	全体平均
【Ⅰ】準備・計画度	5	4	3	2	1		
1. 担当教員は、授業の準備を十分に行っていた。	2398	982	596	28	14	4.4	4.4
2. シラバスに記載された目的は授業の中で明確に伝わった。	1944	1181	826	48	15	4.2	4.2
3. 時間通りに始まり進行していた。	2227	935	740	82	28	4.3	4.3
【Ⅱ】内容・指導法							
1. 授業の内容は、興味深く受け止められた。	2157	1167	584	82	27	4.3	4.3
2. 担当教員は熱意を持って授業をしていた。	2436	1011	522	32	14	4.5	4.5
3. 授業の進め方、話し方、トピックは良好であった。	2009	1125	734	107	34	4.2	4.2
【Ⅲ】達成度・成果							
1. 内容は十分理解できた。	1361	1426	1018	162	48	4.0	4.0
2. 新しい知識や見解が得られた。	2130	1196	581	83	23	4.3	4.3
3. この授業への期待は充足された。	1813	1209	832	106	43	4.2	4.2
【Ⅳ】学習者による自己チェック(試験的追加項目)							
1. 教育目的に関して教員との意識共有ができていた。	1193	1224	1391	154	51	3.8	3.8
2. 教育内容・方法について教員との合意事項を理解し、授業に参加し	1243	1202	1382	141	40	3.9	3.9
3. 大学という共同体の一員としての意義を持って授業に参加できた。	1235	1108	1448	144	47	3.8	3.8
【Ⅴ】履修への積極度							
1. 積極的によく出席した。	1633	1128	964	243	36	4.0	4.0
2. 課題に意欲的に取り組んだ。	1139	1247	1394	174	43	3.8	3.8
3. 事前(予習)・事後(復習)の学習に努めた。	652	899	1882	390	177	3.4	3.4

【Ⅵ】選択の動機 ※複数選択可

1: 単位がとりやすそう 2: 授業内容に興味を持った 3: 担当教員の授業に興味を持った 4: 友人・先輩などに勧められた 5: 卒業単位の都合

1	2	3	4	5
405	2104	532	87	1252



	当科目平均	全体平均
【Ⅰ】準備・計画度	4.3	4.3
【Ⅱ】内容・指導法	4.3	4.3
【Ⅲ】達成度・成果	4.2	4.2
【Ⅳ】学習者による自己チェック	3.8	3.8
【Ⅴ】履修への積極度	3.7	3.7

京都嵯峨芸術大学

⑧卒業生学習成果アンケート集計表

a 短期大学部美術学科

分野名	領域名	所属卒業生数	回答数	学習成果																															
				A								B								C								D							
				1	2	3	4	5	無回答	平均	1	2	3	4	5	無回答	平均	1	2	3	4	5	無回答	平均	1	2	3	4	5	無回答	平均				
美術分野	洋画領域	8	7	0	0	2	4	1	0	3.9	0	1	2	2	2	0	3.7	0	0	1	5	1	0	4	0	1	2	3	1	0	3.6				
	現代アート	4	3	0	0	1	2	0	0	3.7	0	0	0	3	0	0	4	0	1	0	2	0	0	3.3	0	0	1	2	0	0	3.7				
	日本画	5	5	0	0	2	3	0	0	3.6	0	0	3	2	0	0	3.4	0	0	3	1	1	0	3.6	0	1	2	2	0	0	3.2				
	分野集計	17	15	0	0	2	9	0	0	3.7	0	1	5	7	2	0	3.7	0	1	4	8	2	0	3.7	0	2	5	7	1	0	3.5				
デザイン分野	グラフィック・広告	12	11	0	0	4	5	2	0	3.8	0	0	4	5	2	0	3.8	0	0	4	3	4	0	4	0	0	4	3	4	0	4				
	暮らしのグッズ	9	9	0	0	2	6	1	0	3.9	0	0	1	7	1	0	4	0	1	1	5	2	0	3.9	0	0	1	7	1	0	4				
	イラストレーション	29	31	0	1	19	10	1	0	3.4	0	2	11	16	2	0	3.4	0	1	10	15	5	0	3.8	0	0	9	19	3	0	3.8				
	アニメーション	6	4	0	0	1	3	0	0	3.8	0	0	1	3	0	0	3.8	0	0	1	3	0	0	3.8	0	1	0	2	1	0	3.8				
	絵本	12	9	0	0	2	6	1	0	3.9	0	0	3	5	1	0	3.8	0	0	4	4	1	0	3.7	0	0	3	6	0	0	3.7				
	分野集計	68	64	0	1	28	30	5	0	3.6	0	2	20	36	6	0	3.7	0	2	20	30	12	0	3.8	0	1	17	37	9	0	3.8				
マンガ分野	マンガ領域	14	9	0	2	0	7	0	0	3.6	0	2	1	6	0	0	3.4	0	2	3	4	0	0	3.2	0	1	2	6	0	0	3.6				
美術学科全体		99	88	0	3	33	46	6	0	3.62	0	5	26	49	8	0	3.68	0	5	27	42	14	0	3.74	0	4	24	50	10	0	3.8				

b 短期大学部専攻科

専攻名	所属卒業生数	回答数	学習成果																															
			A								B								C								D							
			1	2	3	4	5	無回答	平均	1	2	3	4	5	無回答	平均	1	2	3	4	5	無回答	平均	1	2	3	4	5	無回答	平均				
美術専攻	7	7	0	0	0	4	3	0	4.4	0	0	2	4	5	0	3.9	0	0	0	3	4	0	4.6	0	0	2	3	2	0	4				
デザイン専攻	10	7	0	2	0	4	1	0	3.8	2	2	1	2	0	0	2.4	1	2	0	3	1	0	3.1	1	2	2	2	0	0					
専攻科全体	17	14	0	2	0	8	4	0	4	2	2	3	6	1	0	3.14	1	2	0	6	5	0	3.86	1	2	4	5	2	0	3.38				

c 芸術学部造形学科

分野名	領域名	所属卒業 生数	回答数	学習成果								
				A(知識・理解)		B(論理的・創造的思考力)		C(態度・価値観・倫理観)			D(技能・技術・表現)	
				A1	A2	B1	B2	C1	C2	C3	D1	D2
日本画分野		22	20	3.3	3.3	3.2	3.3	3.5	3.2	3.2	3.3	3.3
油画分野		16	13	3.1	3.2	2.8	3.2	3.5	2.8	3	3.5	3.2
版画分野		8	4	3.7	4	4	4.3	4.8	4.3	4.5	4.5	4.3
彫刻分野		3	2	3.5	3.5	2.5	4	5	3.5	4.5	4	3
工芸分野	陶芸領域	14	5	3.4	3.4	3.6	3.8	4	3.8	3.2	3.4	3.4
	染織領域		0	#	#	#	#	#	#	#	#	
造形学科全体		63	44	3.28	3.34	3.12	3.45	3.75	3.25	3.3	3.52	3.34

備考: A1およびB1において無回答各1名

d 観光デザイン学科・メディアデザイン学科

学科名	所属卒業生数	回答数	学習成果										
			A(知識・理解)			B(論理的・創造的思考力)			C(態度・価値観・倫理観)			D(技能・技術・表現)	
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2
観光デザイン学科	22	21	3.4	3.4	3	3.9	3.6	3.7	3.9	3.7	3.4	4	3.6
メディアデザイン学科	44	37	3.1	3	2.9	3.3	3.3	3.3	3.7	3.4	3.3	3.2	3.2



京都嵯峨芸術大学

8th, Jan., 2013

京都嵯峨芸術大学FD研修会

授業の到達目標の書き方 教育の質保証の原点を確認する

立命館大学 沖 裕貴

高等教育の質保証の観点

認証評価のキーワードは、「体系性」「整合性」「適切性」「有効性」「妥当性」
それらのキーワードを鍵にして、「3つのポリシー(DP・CP・AP)の明確化」が求められる。

また、2011.4に施行された(改正)学校教育法施行規則では以下の点が求められる。
◎授業科目、授業の方法及び内容を並びに年間の授業の計画に關すること(第5号 関係)。
その際、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意すること。
◎大学(大学院)は、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に關する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。
その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意すること(第172条の2第2項関係)。

さらに、日本学術会議の「大学教育の分野別の質保証のための教育課程編成上の参照基準についてー趣旨の解説と作成の手引きー」によれば

◎「当該分野の学びを通じて獲得すべき基本的な知識と理解」は、当該分野の知識や理解に關して「何かを説明できる」という形で記述すること。

◎「当該分野の学びを通じて獲得すべき基本的な能力」は、「何かを行うことができる」という形で記述すること。

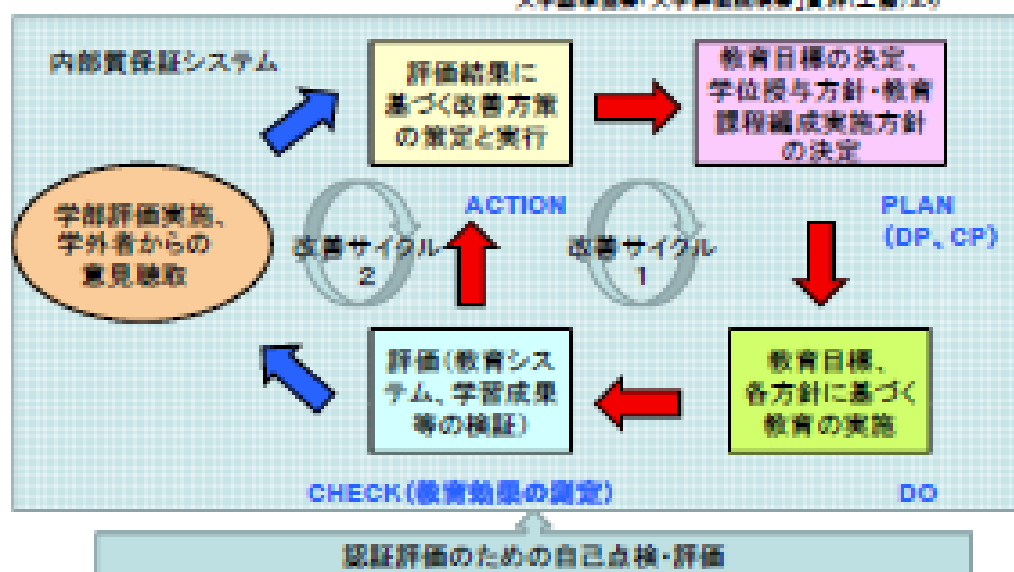
時間配分

1. **講義(昨年のレビュー): 16:30～17:10**
 -カリキュラム開発と授業設計の基本的な考え方の理解(40分)
2. **WS: 17:10～18:30**
 -個人ワーク(到達目標の書き直し)(30分)
 -グループワーク(グループ内共有)(30分)
 -劇的before-afterの発表と講評(20分)



内部質保証システムの構築

大学基準協会「大学評価説明会」資料(工藤)より



内部質保証システムの構築とは、 PDCAサイクルを回すこと



DPとCPの明確化の方策

体系的、整合性、適切性

適切性(具体的な人材像)

体系的・整合性

適切性(授業形態、
授業方法、授業配置)

適切性
(成績評価基準、成績評価方法)

理念・目的

教育目標

教育課程

授業設計・実施

成績評価

妥当性、有効性

妥当性(社会との
関わりにおいて)

有効性(教育効果
の測定)

妥当性・有効性

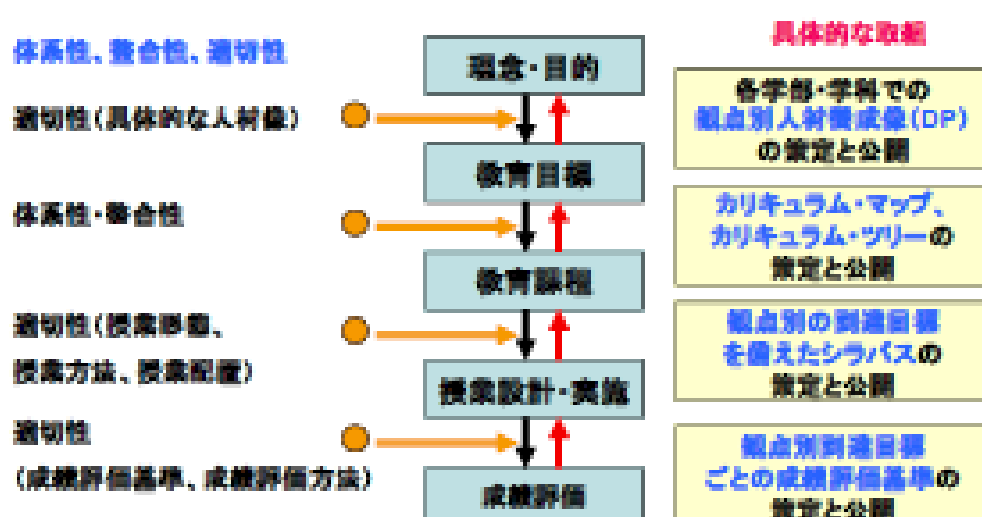
妥当性(客観的かつ
厳格な成績評価
の検証)

DP、CP、APとは

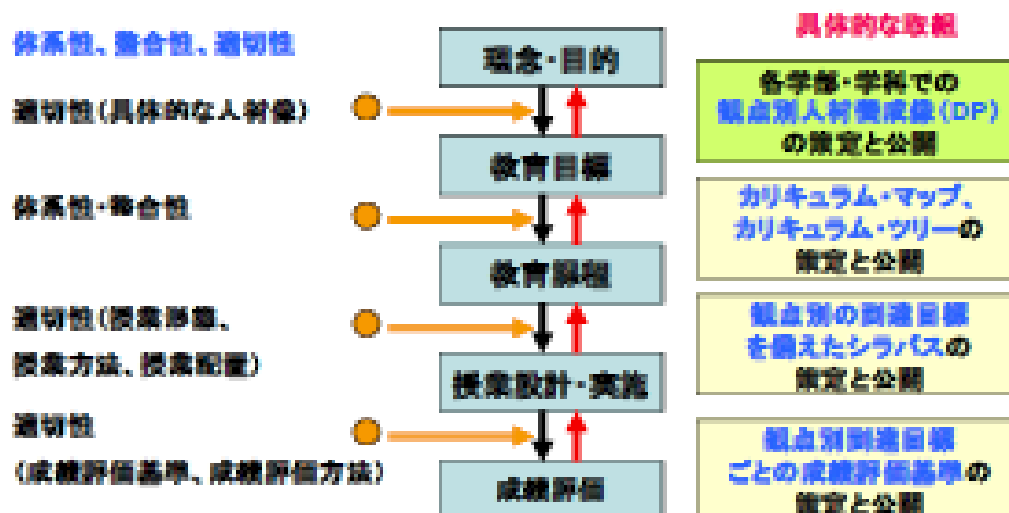
- ◆ **ディプロマ・ポリシー(DP)**:「卒業認定・学位授与に関する基本的な方針」=「学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を記したもの」=「人材養成像」
- ◆ **カリキュラム・ポリシー(CP)**:「教育の実施に関する基本的な方針」=「DPを保証する**体系的**と**整合性**が担保されたカリキュラム」
- ◆ **アドミッション・ポリシー(AP)**:「DPに沿った学生募集の方針と入学者選抜の方法」

中央教育審議会・大学分科会答申「我が国の高等教育の将来像」(2005)

DPとCPの明確化の方策



DPとCPの明確化の方策



観点別教育目標 (DP) の例

立命館大学文学部の例

- (1) 文化や社会における様々な事象に向き合うための幅広い教養的学知を備えている。(認知的領域: 知識・理解)
- (2) 人間の生に関わる様々な事象を深く理解し、評価するための専門的学知を備えている。(認知的領域: 知識・理解)
- (3) 学知を総合した理解の上に思考し、現実の判断に移すことができる。(認知的領域: 思考・判断)
- (4) 豊かな交流によって培われた協調性と社会的コミュニケーション能力を発揮できる。(精神運動的領域: 技能)
- (5) 文化の多様性の理解にもとづいた倫理的意識を行動の原理に据えている。(情意的領域: 態度)
- (6) 国家的な枠組みを超え、地球市民として思考・行動しようとする国際的感覚を備えもつ。(情意的領域: 態度)

観点別教育目標の理論

目標類型と目標領域の観点からの代表的目標例の分類(堀田、1978)

	達成目標	向上目標	体験目標
認知的領域 (Cognitive Domain)	知識、理解等(知識・理解)	論理的思考力、創造性等(思考・判断)	発見等
情意的領域 (Affective Domain)	興味、関心等(興味・関心)	態度、価値観、倫理観等(態度)	触れあい、感動等
精神運動的領域 (Psychomotor Domain)	技能、技術等(技能・表現)	練達等	技術的達成等

観点別人材養成例

ハーバード大学(コア・カリキュラム、1988)

「関心・意欲・態度」

- ◆違った価値観や伝統や制度を持った異文化に関して深い認識を持つことができる。

「思考・判断」

- ◆明晰かつ批判的に思考することができる。
- ◆自然と社会と人間との関わりを理解し、知識を得る方法と考え方を説明することができる。

「技能・表現」

- ◆正確に意思の疎通を図ることができる。
- ◆コンピュータ等を用い、数量的な処理を行うことができる。
- ◆一つ以上の外国語を用い、コミュニケーションすることができる。
- ◆正確に書くことができる。

「知識・理解」

- ◆正確に理解することができる。

(注)上記のものはBok学長が示した能力を冲が観点別に整理したもの。

観点別人材養成像（DP）の例

滋賀県立大学工学部電子システム工学科

A	人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につけること
A-1	人間の心身および人間と自然や社会との関わりなどについて、真実に応じて多面的に学習し、複雑化・流動化していく現代社会の中で応用の技能を具現化していく能力を身につけること
A-2	技術が環境や社会に与える影響について理解し、技術者としての責任感と倫理観を身につけること
B	国際的に活躍する地球市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基盤を身につけること
C	電子システム工学分野の基礎となる数学、物理学、化学および情報処理技術に関する知識とそれらを活用する能力を身につけること
D	電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し、さらにそれらを基盤として高度な専門知識を身につけること
D-1	電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について、基礎知識とそれらを問題解決に応用する能力を身につけること
D-2	電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術の中でも特に必要とされる選択した個別技術について、高度な専門知識とそれらを問題解決に応用する能力を身につけること
E	電子システム工学分野の調査、実習の知識を通して、工学問題を設定・遂行・解決する能力を身につけること
E-1	電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い調査の計画遂行能力、結果の解析・高度な説明能力および報告書の作成能力を身につけること
E-2	電子システム工学分野の技術者に要求される課題の理解力と、与えられた制約下でその工学的な解決策を見つけていく計画的に仕事を遂げる成果としてまとめる、エンジニアリングデザイン能力と実行力を身につけること
F	自分の進め方や考え方について簡潔や口頭で説明の長短適切に発表しディスカッションを行う、コミュニケーション能力を身につけること
G	技術者としての明確な目的意識を持ち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につけること

カリキュラム・マップとは

- ◆ 領域（観点）別に記述された、ディプロマ・ポリシーと各授業の到達目標との対応表を「**カリキュラム・マップ**」と呼ぶ。
- ◆ カリキュラム構築には、①**目的（DP）**、②**scope（カリキュラム・マップ）**、③**sequence（カリキュラム・ツリー）**が必須。
- ◆ 認証評価の点検・評価項目における「3 学士課程の教育内容・方法等」―「(1)教育課程等」―「A 学部・学科等の理念・目的や教育目標との対応関係における、**学士課程としてのカリキュラムの体系性**」の挙証に対処するものである。

DPとCPの明確化の方策

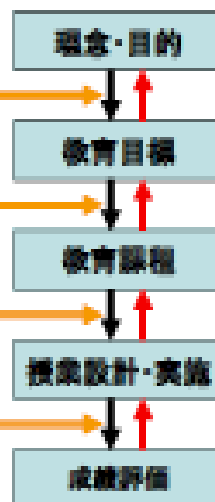
体系的性、整合性、適切性

適切性(具体的な人材像)

体系的性・整合性

適切性(授業形態、
授業方法、授業配置)

適切性
(成績評価基準、成績評価方法)



具体的な取組

各学部・学科での
観点別人材育成像(DP)
の策定と公開

カリキュラム・マップ、
カリキュラム・ツリーの
策定と公開

観点別の到達目標を
備えたシラバスの
策定と公開

観点別到達目標
ごとの成績評価基準の
策定と公開

電子システム工学科 授業科目別学習保証時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度(その1)

区分	授業科目名	単 位 数	必修・ 選択 等の 別	学 年 ・ 学 期	合計時 間数 (時間)	学習保証時間(時間)			学習・教育目標に対する関与の程度											
						学習内容の区分			A 1	A 2	B	C	D 1	D 2	E 1	E 2	F	G		
						人文科学 社会科学 法学	数学 自然科学 情報技術	専門分野												
全学共通基礎科目	英語Ⅰ(留学生は必修でない)	2	必修	1・通年	42	42				○										
	英語Ⅱ(留学生は必修でない)	2	必修	1・通年	42	42				○										
	英語Ⅲ(留学生は必修でない)	2	必修	2・通年	42	42				○										
	英語Ⅳ(留学生は必修でない)	2	必修	2・通年	42	42				○										
	ドイツ語Ⅰ	2	選択	1・通年	42	42				○										
	ドイツ語Ⅱ	2	選択	2・通年	42	42				○										
	フランス語Ⅰ	2	選択	1・通年	42	42				○										
	フランス語Ⅱ	2	選択	2・通年	42	42				○										
	中国語Ⅰ	2	選択	1・通年	42	42				○										
	中国語Ⅱ	2	選択	2・通年	42	42				○										
	朝鮮語Ⅰ	2	選択	1・通年	42	42				○										
	朝鮮語Ⅱ	2	選択	2・通年	42	42				○										
	初級英語Ⅰ(留学生のみ)	2	選択	1・通年	42	42				○										
	初級英語Ⅱ(留学生のみ)	2	選択	2・通年	42	42				○										
	日本語Ⅰ(留学生のみ)	2	選択	1・通年	42	42				○										
	日本語Ⅱ(留学生のみ)	2	選択	1・通年	42	42				○										
	日本語Ⅲ(留学生のみ)	2	選択	2・通年	42	42				○										
	日本語Ⅳ(留学生のみ)	2	選択	2・通年	42	42				○										
	英語ⅤA	1	選択	3,4・前期	21	21					○									
	英語ⅤB	1	選択	3,4・後期	21	21					○									
	英語ⅥA	1	選択	3,4・前期	21	21					○									
	英語ⅥB	1	選択	3,4・後期	21	21					○									
ドイツ語ⅡA	1	選択	3,4・前期	21	21					○										
ドイツ語ⅡB	1	選択	3,4・後期	21	21					○										
フランス語ⅡA	1	選択	3,4・前期	21	21					○										
フランス語ⅡB	1	選択	3,4・後期	21	21					○										
情報科学基礎	2	必修	1・後期	21		21					○									
情報科学演習Ⅰ	1	必修	1・前期	21		21						○								
情報科学演習Ⅱ	1	必修	2・前期	21		21						○								
健康・体力科学Ⅰ	1	必修	1・後期	21	21				○											
健康・体力科学Ⅱ	1	必修	2・前期	21	21				○											
環境マネジメント総論	2	必修	1・前期	21	21					○										
人間探求学	2	必修	1・前期	21	21					○										
自然環境論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
進歩の自然史	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
持続的発展論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
ひびく環境行政論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
材料史	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
機械技術と人間	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
現代経済論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
差別と人権(開和問題)	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
民族と宗教	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
比較文明論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
身体・学習・芸術	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
比較都市論	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
近江文化論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
人間と自然界	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
こころのチカラ/ロジック	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
動物行動学	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
人間とことば	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
詩歌と人間	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
東洋思想時空論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
異文化理解A	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
異文化理解B	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
人間と病気	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
人間の起源と進化	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
セルフケア論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
人間にとって環境とは何か	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
環境行動論	2	選択	1・4・前期	21	21					○										
新卒の健康と栄養	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
地元学入門	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
自然科学の視点	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
空間計画論	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
電子社会と人間	2	選択	1・4・後期	21	21					○										
比較経済論	2	選択	1・4・前期	21	21					○										

電子システム工学科 授業科目別学習保証時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度(その2)

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数(時間)	学習保証時間(時間)			学習・教育目標に対する関与の程度										
						学習内容の区分			A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	
						人文科学 社会科学 語学	数学 自然科学 情報技術	専門分野											
学部共通基盤科目	材料科学概論	2	選択	1・前期	21		21						○						
	機械システム工学概論	2	選択	1・前期	21		21						○						
	電子システム工学概論	2	必修	1・前期	21		21						◎						
	図学統計	2	必修	1・後期	21		21						◎						
	微積分Ⅰ	2	必修	1・前期	21		21						◎						
	微積分Ⅱ	2	必修	1・後期	21		21						◎						
	線形代数Ⅰ	2	必修	1・前期	21		21						◎						
	線形代数Ⅱ	2	選択	1・後期	21		21						○						
	基礎力学	2	必修	1・前期	21		21						◎						
	基礎電磁気学	2	必修	1・後期	21		21						◎						
	電子と化学結合	2	選択	1・後期	21		21						○						
	基礎化学	2	必修	1・前期	21		21						◎						
	分析化学	2	選択	1・前期	21		21						○						
	基礎電気電子回路	2	必修	1・後期	21		21						◎						
	物理学実験	2	必修	1・後期	42		42						◎						
	微積分特論	2	選択	2・前期	21		21						○						
	工業数学	2	必修	2・後期	21		21						◎						
	微分方程式	2	選択	2・前期	21		21						○						
	分析・増強化学実験	2	選択	2・前期	42		42						○						
	科学技術英語	2	必修	3・前期	21	21							◎						
	工業数理	2	選択	3・前期	21		21						○						
	技術者倫理	2	必修	3・後期	21	21							◎						
	産業技術マネジメント	2	選択	4・後期	21	21							○						
	学部基礎科目	無機化学Ⅰ	2	選択	2・前期	21		21						○					
		電子システム工学セミナー	2	選択	1・前期	63			63								○		○
		電磁気学Ⅰ	2	必修	2・前期	21		21						◎					
		電磁気学Ⅱ	2	選択	2・後期	21		21						○					
		電気回路Ⅰ	2	必修	2・前期	21		21						◎					
		電気回路Ⅱ	2	選択	2・後期	21		21						○					
		電子回路Ⅰ	2	必修	2・後期	21		21						◎					
		量子力学概論	2	選択	2・前期	21		21						○					
		物性デバイス基礎論	2	選択	2・後期	21		21						○					
		半導体基礎	2	必修	2・後期	21		21						◎					
コンピュータハードウェア		2	必修	2・後期	21		21						◎						
アルゴリズムとデータ構造		2	必修	2・前期	21		21						◎						
プログラミング基礎		2	必修	2・後期	21		21						◎						
デジタル信号処理		2	選択	2・後期	21		21						○						
情報理論		2	選択	2・前期	21		21						○						
電子システム工学実験Ⅰ		2	必修	2・前期	63		63									◎			
電子システム工学実験Ⅱ		2	必修	2・後期	63		63									◎			
電子システム工学演習Ⅰ		1	必修	2・前期	21		21						◎					◎	
電子システム工学演習Ⅱ		1	必修	2・後期	21		21						◎					◎	
電子回路Ⅲ		2	必修	3・前期	21		21						◎						
電気電子計測Ⅰ		2	必修	3・前期	21		21						◎						
電気電子計測Ⅱ		2	選択	3・後期	21		21						○						
電気エネルギーシステム工学		2	選択	3・前期	21		21						○						
半導体デバイス		2	選択	3・前期	21		21						○						
制御工学		2	選択	3・前期	21		21						○						
電力工学Ⅰ		2	選択	3・前期	21		21						○						
電力工学Ⅱ		2	選択	3・後期	21		21						○						
情報通信工学		2	選択	3・前期	21		21						○						
コンピュータアーキテクチャ		2	選択	3・前期	21		21						○						
数値解析・数値計算		2	選択	3・後期	21		21						○						
コンピュータソフトウェア		2	必修	3・前期	21		21						◎						
電子システム工学実験Ⅲ		2	必修	3・前期	63		63									◎			
電子システム工学実験Ⅳ		2	必修	3・後期	63		63									◎			
電子システム工学演習Ⅲ	1	必修	3・前期	21		21						◎							
学部専門科目	電磁波工学	2	選択	3・後期	21		21							○					
	電気機器	2	選択	3・後期	21		21							○					
	応用電子機器	2	選択	3・後期	21		21							○					
	集積回路設計基礎	2	選択	3・後期	21		21							○					
	電子デバイス	2	選択	3・後期	21		21							○					
	マルチメディア	2	選択	3・後期	21		21							○					
	インターネット工学	2	選択	3・後期	21		21							○					
	集積化プロセス工学	2	選択	4・前期	21		21							○					
	プラズマ工学	2	選択	4・前期	21		21							○					
	パワーエレクトロニクス	2	選択	4・前期	21		21							○					
	光エレクトロニクス	2	選択	4・前期	21		21							○					
	ロボット工学	2	選択	4・前期	21		21							○					
	電気関係法規・施設管理	2	選択	4・後期	21		21							○					
	卒業研究	8	必修	4・通年	252		252							◎		◎	◎	◎	

※複数学科共通科目

電子システム工学科 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人間科学	健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ					
	「人間学」の必修科目以外から4科目選択必修							
A-2	基礎マシニング技術				基礎製造技術		高度技術マシニング	
B	第一外国語Ⅰ(B1) 第一外国語Ⅱ(B1) 第二外国語Ⅰ(B2)	第一外国語Ⅱ(B1) 第一外国語Ⅲ(B1) 第二外国語Ⅱ(B2)	第一外国語Ⅲ(B1) 第一外国語Ⅳ(B1) 第二外国語Ⅲ(B2)	科学技術英語				
C	情報科学概論Ⅰ 情報科学概論Ⅱ 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 基礎力学 基礎化学 分析化学	情報科学概論Ⅲ 線形代数Ⅲ 線形代数Ⅳ 基礎物理学 基礎電磁気学 基礎電気電子回路 電子と化学概論 有機・環境化学実験	情報科学概論Ⅳ 工業数学 工業数学Ⅱ					
D-1	材料科学概論 情報システム工学概論 電子システム工学概論	電気科学Ⅰ 電気科学Ⅱ 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ 電子力学概論 情報論 アルゴリズムとデータ構造 電子システム工学概論Ⅰ	電気科学Ⅲ 電子回路Ⅲ 電子回路Ⅳ 中級電磁気学 電子デバイス基礎 デジタル信号処理 コンピュータアーキテクチャ コンピュータシステムⅠ 電子システム工学概論Ⅱ	電気電子回路Ⅰ 電気電子回路Ⅱ 情報工学 電力工学Ⅰ 電力システム・エネルギーシステム工学 中級電子デバイス 情報通信工学 コンピュータシステムⅡ 電子システム工学概論Ⅲ	電気電子回路Ⅲ 電力工学Ⅱ 電気電子システム工学 情報通信工学Ⅱ 電子システム工学概論Ⅳ			
D-2					電気電子工学 電子デバイス 電気回路 高度回路設計基礎 応用電子回路 マルチメディア インターネット工学	システム工学 応用電子工学 パワーエレクトロニクス 高度化プロセス工学 ロボット工学	電気電子回路・高度回路	卒業研究
E-1	電子システム工学実習Ⅰ		電子システム工学実習Ⅱ	電子システム工学実習Ⅲ	電子システム工学実習Ⅳ			
E-2					電子システム工学実習Ⅴ		卒業研究	
F							卒業研究	
G	電子システム工学実習Ⅵ		電子システム工学実習Ⅶ	電子システム工学実習Ⅷ			卒業研究	

※1 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、初級英語(留学生のみ)、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

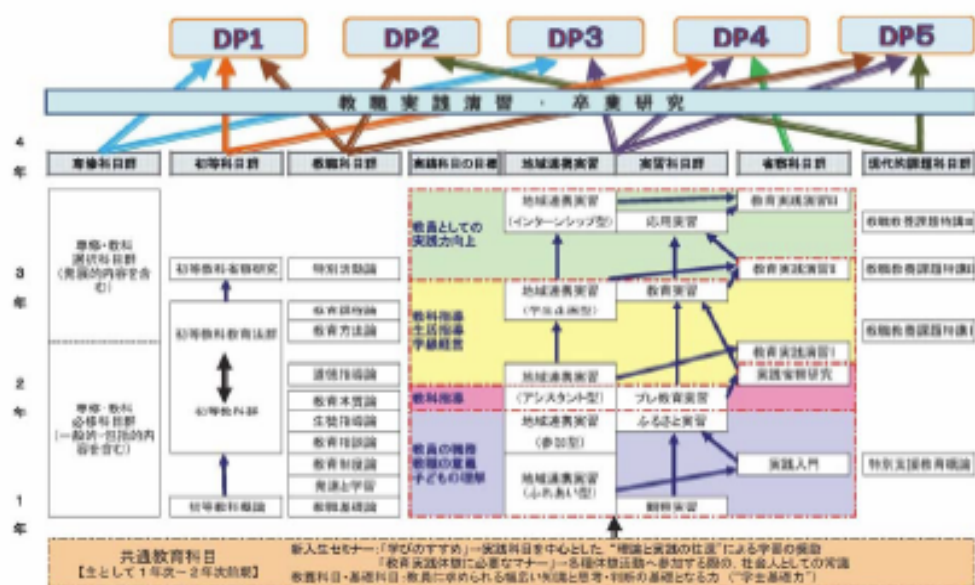
カリキュラム・マップ例

立命館大学文学部(東洋史学専攻 一部)

科目区分	科目名	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
入門科目	東洋史学入門					○	○
	リテラシー入門Ⅰ				○		
	リテラシー入門Ⅱ				○		
小論文科目	研究入門Ⅰ					○	○
	研究入門Ⅱ					○	○
	基礎課題Ⅰ			○	○		
	基礎課題Ⅱ			○	○		
	専門演習Ⅰ			○			
	専門演習Ⅱ			○			
	専門演習Ⅲ				○		○
	専門演習Ⅳ				○		○
卒業論文	卒業論文				○		
読書	東洋史読書Ⅰ	○					
	東洋史読書Ⅱ	○					
	東洋史読書Ⅲ	○					
	東洋史読書Ⅳ	○					
講義	概文			○			
	東洋史学史		○				○
演習	東洋史課題演習Ⅰ			○			
	東洋史課題演習Ⅱ			○			
特別講義	東洋史特別講義		○			○	
選 修・ス キ ル 系科目	東洋学のための資料入門			○			
	東洋学のための情報活用				○		
	アジアの文学						○
	英語中国語Ⅰ			○	○		
	英語中国語Ⅱ			○	○		
	英語中国語Ⅲ			○	○		
	英語中国語Ⅳ			○	○		

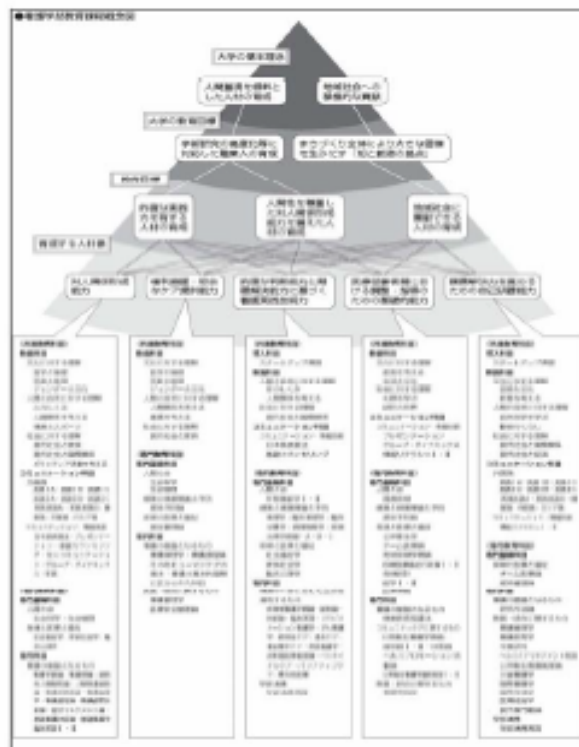
カリキュラム・ツリー例

愛媛大学教育学部学校教育教員養成課程



カリキュラム・ツリー

育成する人材像(DP)、教育目標から大学の教育目標や大学の基本理念までマッピングしており、提供する科目との対応関係が一目瞭然。



DPとCPの明確化の方策

体系的、整合性、適切性

適切性(具体的な人材像)

体系的・整合性

適切性(授業形態、
授業方法、授業配置)

適切性
(成績評価基準、成績評価方法)

理念・目的

教育目標

教育課程

授業設計・実施

成績評価

具体的な取組

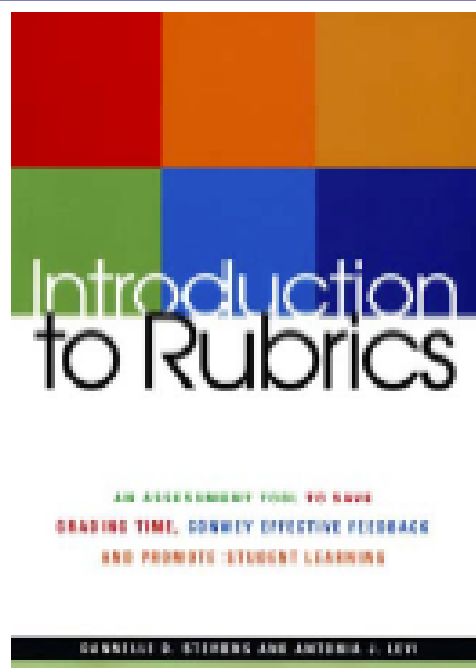
各学部・学科での
観点別人材養成像(DP)
の策定と公開

カリキュラム・マップ、
カリキュラム・ツリーの
策定と公開

観点別の到達目標
を備えたシラバスの
策定と公開

観点別到達目標
ごとの成績評価基準の
策定と公開

ループリックとは



An assessment tool to
save grading time,
convey effective
feedback and promote
student learning

大学における成績評価に関する法令

1. 大学設置基準(第二十五条の二)

- I. 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ開示するものとする。
- II. 大学は、学生の成績に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び信頼性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ開示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

2. 学校教育法施行規則(第68条の3)

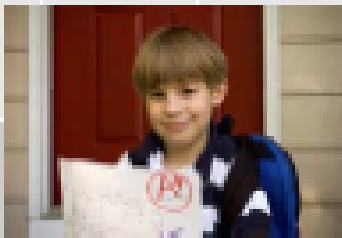
学校教育法第25条の3に規定する卒業の認定は、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合に限り行うことができる。

- I. 大学が、学生の成績に係る評価の基準その他の学校教育法第25条の3に規定する卒業の認定の基準を定め、それを公表していること。
- II. 省略
- III. 学校教育法第25条第1項に定める学校の課程を修習する学生が、卒業の要件として修得すべき単位を修得し、かつ、当該単位を優秀な成績をもって修得したと認められること。

3. 学校教育法施行規則の改正に伴う大学等の教育情報の公表(H23.4～)

- I. 授業科目、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画に関すること。(第5号関係)
 - これらは、大学設置基準第25条の2第1項等において、学生に開示することとされているものであること、その際、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意すること、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を添付することが考えられること。
- II. 学生の成績に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。(第6号関係)
 - これらは、大学設置基準第25条の2第2項等において、学生に開示することとされているものであること、その際、必修科目、選択科目及び自由科目の別の必要単位数等を明らかにし、取得可能な学校に関する情報を明らかにすることに関する事項。

Rubric Template (Japan)

	F	G	B	A	A+
1.シラバスあるいは課程の到達目標 1	Description of identifiable performance characteristic s reflecting a beginning level of performance	Description of identifiable performance characteristic s reflecting a beginning level of performance	Description of identifiable performance characteristics reflecting development and movement toward mastery of performance	Description of identifiable performance characteristics reflecting mastery of performance	Description of identifiable performance characteristics reflecting the highest level of performance
2.シラバスあるいは課程の到達目標 2					
3.シラバスあるいは課程の到達目標 3					

「現代の教育」レポート試験ルーブリック（沖）

「①現代の教育の諸問題について、その背景や原因、検討すべき課題を指摘できる」「②現代の教育の諸問題について、教育学的な視点に基づき、解決法や対処すべき課題に関して自らの意見を述べることができる」「③教育に関して興味関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ」の3つの到達目標に対応。課題：「現代の教育の諸相1～14に関して、一つもしくは関連する複数のテーマについて、いくつかの文献に当たり、多角的に考察し、自らの意見を述べなさい。図表を含めA4 二枚以上三枚以内、4,500字～4,800字で44点満点とする。」

	Poor(F)	Beginning(C)	Developing(B)	Accomplished(A)	Exemplary(A+)
取りあげたテーマに関して自らの考えを述べている（20点満点）。	◆問題意識（仮説）がなく、何を論じたいのかわからない。 ◆他人の意見ばかりで自らの意見がほとんど述べられていない。 ◆レポート試験課題に沿っていない。（0～4点）	◆問題意識（仮説）が不明確か、ありふれている。 ◆参照した一部の文献に引きずられた形で自らの主張をまとめている。（5～8点）	◆問題意識（仮説）は述べられているが、反証が十分に調べられていない。 ◆自らの主張の正当性を根拠に基づいて説得できていない。 ◆結論がありふれたものになっている。（9～12点）	◆自らの問題意識（仮説）に基づき、賛否両論の文献に当たり、自らの考えをまとめているが、結論の新規性、独自性あるいは説得力にやや難がある。（13～16点）	◆興味深い切り口（仮説）で問題点を指摘し、十分な量の根拠と独自の思索に基づき結論を導いている。（17～20点）
根拠に基づき、論理的な説明ができていない（10点満点）。	◆情緒的な文章が続き、まったく論理的な説明ができていない。 ◆引用文献、参考文献がなく、根拠がまったく示されていない。（0点）	◆一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていない。（1点）	◆根拠を示し、概ね正確に引用しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。（2～4点）	◆根拠に基づき、論理的な説明がほぼできていない。（5～7点）	◆根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。（8～10点）
引用文献、参考文献を明示し、自らの意見と区別している（8点満点）	◆引用文献、参考文献がまったく明示されておらず、空用の可能性が高い。（0点）	◆引用文献、参考文献が明示化されているが、どこまで自分の意見かが不明確な箇所が複数箇所見受けられる。（3点）	◆引用した箇所、文献が明示化されているが、章末に文献一覧が明示されていない。（5点）	◆引用文献、参考文献がしっかり明示化されており、自分の意見と他人の意見の区別が明確になっている。（8点）	
誤字脱字がなく、段落も明確で、読みやすい文章となっている（3点満点）。なお、文章量が適切であることが前提である。	◆誤字脱字が5つ以上あるか、段落が区切られていない箇所が3箇所以上ある。 ◆文章量が規定より多い、または少ない。（0点）	◆誤字脱字が1つ以上あるか、段落が区切られていない箇所が1箇所以上ある。（1点）		◆誤字脱字がなく、段落も明確で、読みやすい文章となっている。（3点）	
「だ・である」体で統一して書かれている（3点満点）。	◆「だ・である」体で書かれていない箇所が3カ所以上ある。（0点）	◆「だ・である」体で書かれていない箇所が1カ所以上ある。（1点）		◆「だ・である」体で統一して書かれている。（3点）	

ループリックの効果（教員）

- 評価時間を短縮する。
- グレーディングの一貫性と公平性を確保する。
- 他者とのコミュニケーションを促進する。
- 自身の教育活動へのフィードバックを得る。
- 授業改善に役立つ。
- 学生の学習状況を把握する。



*Introduction to Rubrics by Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi, 2004

ループリックの効果（カリキュラム）

- プログラムの改善につながる。
- 非常勤講師やライティングセンター等との協働作業や共通理解を促す。
- 学部・学科を横断し、一貫性を保ち、大学の教育目標とリンクする。



*Introduction to Rubrics by Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi, 2004

ループリックの効果（学生）

- どう評価されているかが明確になる。
- 授業への関与（参画）を促す。
- 公平性に対する認識を促す。
- クリティカルな思考を支援する (Peat, 2006)
 - ✓ By encouraging students to think critically about their own learning, rubrics can inspire precisely the pattern of "self-assessment and self-improvement"



*Introduction to Rubrics by Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi, 2004

"Introduction to Rubrics - an assessment tool to save grading time, convey effective feedback and promote student learning -", Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi, 2004

Rubric for Film Presentation

Task Description: Working in groups of four or five, students will develop and present to the class an analysis of a Japanese movie about World War II. This analysis should go beyond a simple synopsis of the movie to discuss how well or poorly the film reflects a particular point of view about the war. You are expected to do additional research to develop this presentation and to use visual aids of some sort. All group members are expected to participate in the presentation.

	Exemplary	Competent	Developing
Individual presentation skills 20%	The presenter spoke clearly and intelligibly, modulating voice tone and quality, maintaining eye contact, and using appropriate body language. The use of humor and competent handling of technology also contributed to the excellence of the presentation. The presenter used all the time available but did not go over the time limit.	The presenter was intelligible but mumbled or droned, spoke too fast or too slow, whispered or shouted, used inappropriate body language, or failed to maintain eye contact. Inappropriate excessive, or too little humor or technical problems detracted from the presentation. The presentation ran over or under the time limit but not dramatically.	The presenter mumbled or droned, spoke too fast or too slow, whispered or shouted and used inappropriate body language, or failed to maintain eye contact to the point where intelligibility was compromised. Too much or too little humor or technological problems seriously detracted from the presentation. The presentation ran seriously over or under the time limit.
Group presentation skills 20%	The presentation followed a logical progression and allowed each member an equal opportunity to shine. Group members treated each other with courtesy and respect and assisted each other as needed.	The presentations followed a logical progression but were unbalanced in the way time or content was assigned to members, or the division of labor was fair but impeded the logical progression of the argument. Group members were mostly respectful and helpful toward one another, but there were lapses.	The presentations followed no logical progression, seriously overlapped one another, or allowed one or a few people to dominate. Group members showed little respect or courtesy toward one another and did not assist one another even when it was clear that a group member was in trouble.
Group organization 20%	The group thesis, topics to be covered and the direction the individual presentations will take are clearly stated at the beginning and carried through in the rest of the presentation.	The thesis, topics to be covered, and the direction the individual presentations will take are clearly stated at the beginning but not carried through in the rest of the presentation, or the thesis, topics to be covered, and direction emerge in the presentation but are not clearly stated in the introduction.	The thesis, topics, and direction are unclear, unstated or not evident in the body of the presentation.

Figure 6.2 Three-level rubric with circled feedback.

※ルーブリックの活用: ①学生への返却でどんな学習成果を身につけたかを明示(上記例)、②ルーブリックを介したライティング・センター等との共同学習支援(課題、授業外学習)

"Introduction to Rubrics - an assessment tool to save grading time, convey effective feedback and promote student learning -", Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi, 2004

Rubric for Film Presentation (映画の批評を行うグループ・プレゼンテーションのルーブリック)

	Exemplary	Competent	Developing
Group organization	✓ The group thesis is clearly stated at the beginning and carried through in the rest of the presentation. ✓ The topics to be covered are introduced and the direction the overall presentation will take is made clear.	□ The group thesis emerges from the presentation but is either unclear, unstated, or not stated directly. □ A clear thesis is stated, but it is not carried through in the presentation. ✓ Topics to be covered and the direction the presentation will take are stated, but they are not the topics covered or the direction actually taken.	□ There is no stated group thesis. □ There is no indication of what topics will be covered or what direction that coverage will take. □ No order or focus emerges in the course of the presentation.
Individual organization	✓ The individual presentation was well organized in itself with an introduction, body, and conclusion. ✓ That organization was emphasized and made clear to the audience through the use of appropriately captioned PowerPoints, overheads, or handouts.	□ The individual presentation was mostly well organized, but there were problems with the introduction, body, or conclusion. ✓ The presenter used PowerPoints, overheads, or handouts, but these were too wordy or too vague to help the audience follow the organization.	□ The presentation rambled with little evidence of the introduction, body, or conclusion. □ PowerPoints, overheads, or handouts either were not used or did not assist the audience in following the organization in any significant way.
Individual content	✓ Facts and examples were detailed, accurate, and appropriate. ✓ Theories referenced were accurately described and appropriately used. ✓ Analyses, discussions, and conclusions were explicitly linked to examples, facts, and theories.	□ Facts and examples were mostly detailed, accurate, and appropriate, but there were lapses. □ Theories were referenced but they were either not accurately described or not appropriately used. ✓ The connection between analyses, discussions, and conclusions is evident or implied, but it is not explicitly linked to examples, facts, and theories.	□ Facts and examples were seriously lacking in detail, inaccurate, or inappropriate. □ Theories referenced were inaccurately described and inappropriately used or not referenced or used at all. □ There is no clear connection between analyses, discussions, and examples, facts, and theories.

※グループや学生個人へのフィードバックにチェックボックス式のルーブリックを利用

成績評価の実際の手順

<手順1> 評価手段、評価比率を決める(シラバスに掲載)

到達目標の観点ごとに、①どんな評価手段を用いるか、②その評価比率をどうするかを決める。

<手順2> 第1段階のルーブリックを作る(共同での科目開発・実施に有効)

到達目標の観点(=評価規準)ごとに、100点満点中の評価比率に相当する点数を最高点として、その60%未満に相当する点数を「Fレベル(不合格)」、60%～70%に相当する点数を「Cレベル」、70%～80%に相当する点数を「Bレベル」、80%～90%に相当する点数を「Aレベル」、90%～100%に相当する点数を「Sレベル」と設定し、「F」「C」「B」「A」「S」に該当する具体的な行動目標を書いた評価基準(standards)を作成し、学生に提示する(第1段階のルーブリック)。

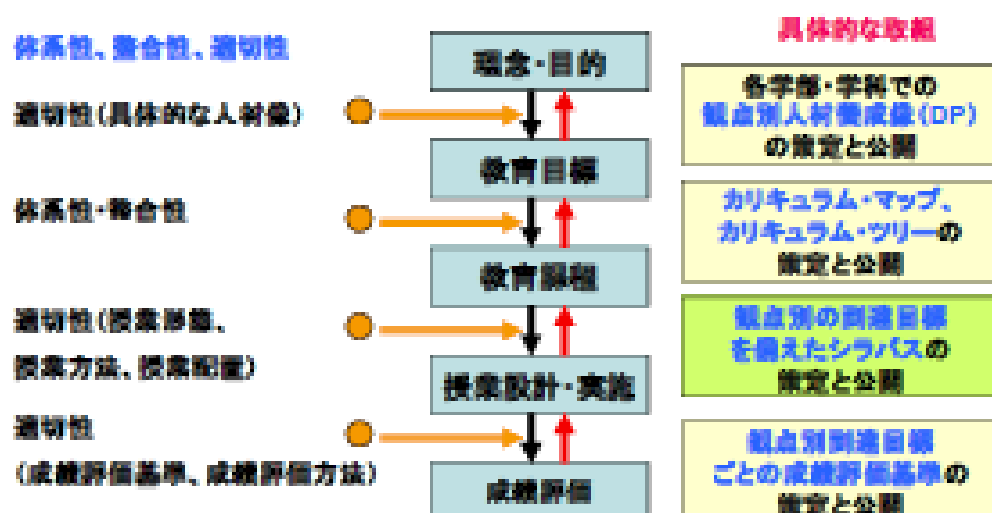
<手順3> 第2段階のルーブリックを作る(受講生への事前通知が望ましい)

各レベルに応じて試験やレポート課題に評価規準と評価基準を書き、学生に提示する。加点法と減点法がある(第2段階のルーブリック)。

<手順4> グレーディング(到達度評価か相対評価)を行う(受講生への事前通知が望ましい)

各到達目標の点数を合計するか、各到達目標の評価を総合評価して、総合的な「F」「C」「B」「A」「S」を判定する(グレーディング)。

DPとCPの明確化の方策



成績評価の例1（手順1）

「芸術論特殊講義」

◆授業の到達目標

1. **認知領域：知識・理解**

- (1)基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。
- (2)企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。

2. **認知領域：思考・判断**

展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。

3. **情意領域：関心・意欲**

県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会を見に行き、企画趣旨や作品について批評することができる。

到達目標	評価手段	評価比率
①基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。	定期試験 (60%)	20%
②企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。		15%
③展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。		25%
④県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会を見に行き、企画趣旨や作品について批評することができる。	課題レポート(40%)	40%

科目の観点別到達目標の例

「芸術論特殊講義」(山口大学の例 by岩部センター長)

◆授業の概要

この講義では、2008年度に開催される展覧会を紹介します。特に企画趣旨や出品作品、作家について解説します。

◆授業の一般目標(GIO)

- (1)幅広い分野の作品に親しむ。
- (2)各展覧会の企画趣旨について理解する。
- (3)美術館や美術館の制度と背景について理解する。

◆授業の到達目標(SBO)

1. **認知領域：知識・理解**

- (1)基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。
- (2)企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。

2. **認知領域：思考・判断**

展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。

3. **情意領域：関心・意欲**

県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会を見に行き、企画趣旨や作品について批評することができる。

科目の観点別到達目標の例

「線形代数」(理系基礎科目)

◆授業の概要

本授業では、行列と行列式の基本的な概念と計算について解説し、線形代数の入門を図る。

◆授業の一般目標

- (1) 行列の概念を理解し、基本的な行列の計算方法に習熟する。
- (2) 行列式の基本性質を理解し、基本的な行列式の計算方法に習熟する。
- (3) 線形空間の概念を理解する。
- (4) 線形代数の様々な概念や手法を、統計学やコンピュータをはじめ、他の学問領域で積極的に応用する態度を持つ。

◆授業の到達目標

1. 認知領域: 知識・理解

- (1) 連立一次方程式を行列を用い、消去法で解くことができる。
- (2) 行列式の基本性質に基づき、行列式の計算が正確にできる。
- (3) ベクトルの一次独立、一次従属、ならびに線形空間の基底、次元の概念を説明することができる。
- (4) 行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。
- (5) 対称行列を対角化することができる。

2. 認知領域: 思考・判断

- (1) 関連する学問分野で線形代数を応用することができる。

科目の観点別到達目標の例

札幌市立大学看護学部－共通教育－ロシア語

◆学習のねらい

基礎である読む・書く・話す・理解する(ロシア語会話で最もよく使われる言葉)ことを学習する。
ロシアのマナー用語(挨拶・自己紹介・電話での会話など)について学習する。また、ロシア文化についての説明もする。

◆到達目標

- ①簡単な文章、例えば会話帳などを読むことができる。
- ②ロシア語でのメールや絵葉書が書けるようになる。
- ③ロシア語での簡単な会話(天気、家族、食事、学校など)ができる。

◆成績評価基準と方法

評価方法	到達目標①	到達目標②	到達目標③	評価基準	評価(%)
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	◎	○	◎	積極的な姿勢	
出席	◎	○	◎	出席重視	
課題・作品	○	◎		提出期限厳守	20%
出席	◎	◎	◎	時間厳守	50%
その他		◎		正確な文法	30%

科目の観点別到達目標の例

全学共通教育科目－言語・情報教育科目－外国語教育科目

◆Overall Goal of the Course

This course aims to develop students' ability to listen and comprehend spoken English of a high level of difficulty, such as news broadcasts, speeches, dialogues and lectures.

◆Learning Outcomes

Students will:

- I. Be able to listen effectively to a variety of academic listening texts and recognize their features (Psychomotor Domain)
- II. Be able to take notes on, and summarize the material (Cognitive Domain)
- III. Be able to actively participate in discussions related to the material (Affective Domain)

◆Instructional Methods and Organization

The Course will be taught using a variety of instructional methods including lecture, listening, pair/group/class discussion, summary writing and note-taking and the keeping of a listening journal.

◆Assignments

Assignments will include keeping a listening journal, summary writing and writing reflective pieces based on material covered in classes.

◆Assessment

Participation (including preparation and class participation) -20%

Listening Journal -20%

Quizzes -20%

Final Exam -40%



観点別到達目標作成の留意点

1. DPとの関連で科目の到達目標を設定する。
2. 成績評価を行うものだけに厳選する。
3. 15回の授業の終わりにできるようになってもらいたい行動や状態(合格することで身に付く力)を、**学習者が主語**で「○○できる」という形式で書く。
4. 「理解する」などの概念的な言葉でなく、観点別の「行為動詞」を参照して、できるだけ観察可能な行動で表現する。
(例)「江戸時代のしくみを理解する」→「江戸時代のしくみを図解できる」、「乗法の意味がわかる」→「乗法の意味を表す作問ができる」
5. 観点別に、できるだけ単文で表現する。

観点別の到達目標の練習問題 1

「自転車に乗るときのコツをつかませる」
という到達目標はどこが変？

【問題点】

【書き直し】



【領域・観点と解説】

時間配分

1. 読書(昨年のレビュー):16:30~17:10

ーカリキュラム開発と授業設計の基本的な考え方の理解(40分)

2. **WS**:17:10~18:30

- ー個人ワーク(到達目標の書き直し)(30分)
- ーグループワーク(グループ内共有)(30分)
- ー劇的before-afterの発表と読評(20分)



観点別の到達目標の練習問題2

「イタリア料理の奥深さを理解し、パスタが作れるようになる」はどこが変？

【問題点】



【書き直し例】

【領域・観点と解説】

ワークショップ（60分）

持参したシラバスの「到達目標」を見直し、適切に書き直してください。また、どの領域・観点の到達目標で書き直したか明らかにしてください。

- (1) まず、各自で考えてください(30分)。書き直し前(before)と書き直し後(after)を白紙のA4用紙の上下に書いてください。
- (2) グループ内で書き直した到達目標を共有してください。また、もっともよく書き直された事例(劇的before-after)を一つ選んでください(30分)。
- (3) 各グループの劇的before-afterをOHCを使って発表してください(20分)。

お疲れさまでした。

沖 裕貴

oki@fc.ritsumeai.ac.jp

⑩平成 24 年度 FD 委員会議事録

第 2 回および第 5 回委員会は、自由な形式のブレインストーミングおよびシミュレーションであり、議事録をとっていない。

第 17 回自己点検評価委員会 FD 委員会合同議事録(平成 24 年度第 1 回 FD 委員会議事録)

開催日：平成 24 年 4 月 10 日 16:30～18:35

場所：第一会議室

出席者（敬称略）：

（企画室長）佐藤

（自己点検評価委員）森山、入佐、坂上、木田、森野、土井

（FD 委員）村上、山本、神谷、倉山

（総務部総務課）午居、新谷、大前

議題

1. FD 委員会委員長選出
2. 成績管理厳格化および学習成果（ラーニング・アウトカム）に対する本学の対応方針について
3. 2011 年度学生授業アンケートの集計方針と集計結果の報告
4. 2012 年度学生授業アンケートの基本方針の検討
5. 本学の個性・特色の認識に基づく独自基準の設定
6. 独自基準の基準項目設定手順と作業スケジュールの検討
7. 2011 年度自己点検評価報告書の編集方針と作業スケジュールの検討
8. 2011 年度自己点検評価報告書の作業割り振りと記入フォームの検討
9. 木田先生作成 J I H E E 対照表の利用法、学内への周知方法について
10. 連絡事項・その他

配布資料：・編集方針と章建て・作業割り振り〔案〕

- ・ディプロマ・ポリシーに基づいた成績評価の厳格化、および、学習成果に基づく教育の質保証について（企画室提案）

三好学長から年度初めの委員会開催にあたり、認証評価に向け、学生募集の対策を講じていることや将来構想も含め、本学が行っている教育改革について強くアピールする必要がある。そのため現状の把握と分析されたデータを収集をし、中期目標につなげる作業を

行っていく、また、全学的な共有事項として大学評価会議並びに将来構想部会に積極的に協力していただくよう要請する必要がある。今回の認証評価は、学園独自の個性と特色に重きを置いたことが趣旨である。

加えて、教育面はもとより、法人運営面についての評価に重きが置かれていると思われる。FDなどの実施により、教員の教育能力の資質向上を目指すことが主で、教育力をいかに高めるか、各教員の成果と改善点について検討する必要がある。学生の成績評価の基準設定、成績の数値化は必要であるが、学生の個性をどう伸ばすか、どのように成長したか、何が基準化できるかを検討いただきたい旨述べられた。

議案1：FD委員長を昨年度に引き続き神谷先生に決定した。

議案5，6

吉野先生から、議案5，6の独自基準に該当するものとして、広義の文化事業、博物館、教員主体の地域交流としての文化事業が該当するのではないかと、作業については、課題、改善点など短期大学評価基準に則って訂正を加える必要がある。芸術学部についての地域貢献のポリシーの確認が必要で、現在他大学から収集中であるとの説明があった。また、地域貢献 1. 教養教育 2. 職業教育 3. 地域貢献の取組みについてから、どの項目が特徴となりえるか、種々意見があり、短期大学部では3. 地域貢献を特徴として選択できるのではないかと。他大学と比較して特長となりうるか、短期大学基準を基に、精査する必要がある。

文化事業を選択的基準としてよいか → 承諾

芸術学部について、文化事業を選択的基準にしてよいか → 承諾

文化事業が中心にこの作業をおこなってよいか → 承諾

地域貢献が、短期大学部としての特徴として足りうるか、再確認し、手順については吉野先生がたたき台を作成することとした。

佐藤先生から その他、文化事業部以外に実施されている特長的なものがあれば、吉野先生にメールで連絡する旨、協力要請がなされた

最終結果として、芸術学部は社会貢献、短期大学部は地域貢献を特徴とする方向で薦めていくことが確認された。

木田先生から配布の資料に基づき説明がされ、本学の問題点は何か、どのような人材を育成しようとしているのか共有する必要がある。また文章では教育目的の問題点やあるべき学生像、入学時から卒業までの一貫した内容設定、アンケート収集後のアンケートの活用問題など種々意見が出された。また平成24年度は、授業アンケートをまとめる程度で、立派な報告書を出す必要がないのではないかなどの意見もあった。

議案7，8，9については、結果佐藤企画室長、木田先生で検討し、改めて提起することとした。

議案 3, 4

神谷FD委員長から授業アンケートについての説明と現状アンケート収集後の扱いについて確認された。アンケートの結果については、①FDのホームページで公開②アンケートのファイルを総務課に常置(前期いっぱい)③掲示にて知らせる。という方法をとる。(4月いっぱい)

反省として、記述欄が多く、またアンケートの趣旨の不徹底さなどもあり、意図した内容との乖離、次回は項目数を1項目とし、その他5段階評価とするとの説明があったが、項目設定、趣旨説明、収集方法、フィードバックの方法などについては、今後に向け検討することとした。

FD委員会からアンケートについてのコメントを記載する必要があるのではないかなどの意見もあった。

議案2成績管理厳格化および学習成果(ラーニング・アウトカム)に対する本学の対応方針については速やかに自己点検評価委員会で方針を作り、大学評価会議でも検討いただく各委員、一読の上まとめておいていただくよう要請され次回に持ち越しとし18時35分散会した

次回開催日は、企画室長が委員宛メールで連絡することとした。

第3回FD委員会 議事録

日時：2012年5月16日(水)、17h30-22h00

場所：学生ホール(議題2以降はグラッチェ・ガーデンズに移動)

出席者：

FD委員：村上、佐藤、山本、倉山、神谷

学友会執行部：藤原、福井、梅津、三好、大橋、岩崎、福岡

議題：

1. 2012年度のFD Caféの運営体制について
2. 第7回FDカフェのテーマについて
3. 連絡事項・その他

冒頭に佐藤FD委員よりFD(ファカルティ・ディベロップメント)の趣旨に関する説明、昨年度のFDカフェの運営状況に関する説明がなされた。

1. 2012年度のFDカフェの運営体制について

今年度最初の正式なFD委員と学友会執行部の協議であったため、以下のことが確認のため

に提起され双方の承認が得られた。

- ・FD 委員会と学友会執行部は相互に独立した団体であり、一方が他方に従属しているわけではないこと
- ・FD カフェは昨年に引き続き、両者の共催という形で運営されること
- ・学友会執行部と FD 委員会は対等に意見を述べ合い、折り合いがつかない場合は学友会執行部から共同開催を打ち切ることができること

2. 第 7 回 FD カフェのテーマについて

神谷委員長より、昨年度の FD カフェの参加者が漸減傾向にあるため、マンネリ化を防止し参加者を呼び込む対策を考える必要があるとの問題提起がなされた。それに対し、学生のみならず教職員にも参加意欲を持ってもらう必要がある、意識の高い学生だけではなく、低い学生にも垣根を作らずに呼び込むためには、ディスカッションに適した奥行きのあるテーマを選ぶ必要がある等の意見が出された。

様々な意見の中でディベートを取り込むといったアイディアも出され、それを受けて、次回以降、二者択一的なテーマを候補として挙げることとなった。その結果、以下の候補が挙げられた。

- ①合評は必要か必要でないか
- ②ゆるい教育ときつい教育のどちらがよいか
- ③デッサンが必要か必要でないか
- ④制作展は必要か必要でないか
- ⑤分野・領域の垣根は必要か必要でないか
- ⑥あなたは美術派か、デザイン派か

その後、出席者の挙手で第 7 回 FD カフェのテーマの第一候補として⑥の「あなたは美術派か、デザイン派か?」、第二候補として「ゆるい教育ときつい教育のどちらがよいか」が決定し、第一候補を主軸に準備作業を進めることとなった。

3. 報告事項・その他

- ①次回 FD カフェは 6 月 27 日（水）16 時からを中心に日程調整を図ることとなった
- ②次回の FD 委員と学友会執行部との協議は 6 月 13 日（水）17 時 30 分に予定することとなった。

以上

2012 年 5 月 18 日

文責：佐藤

日時：2012年6月13日（水）、17h30-19h00

場所：学生ホール

出席者：

FD 委員：佐藤、山本、倉山、神谷

学友会執行部：福井、梅津、大橋、岩崎、福岡

議題：

1. 第7回 FD カフェの日程、会場について
2. 第7回 FD カフェのテーマについて
3. 連絡事項・その他

-
1. 第7回 FD カフェの日程、会場について

前回の委員会で決定した日程を、下記のとおり変更した。

- ・日程：2012年7月10日（火）16:00～
- ・会場：講堂

2. 第7回 FD カフェのテーマについて

前回の委員会で絞り込んだテーマの第1候補である「あなたは美術派か、デザイン派か？」について議論のシミュレーションした結果、教育に関する議論になりにくいこと、工芸分野の学生の立場などを踏まえると議論が深まらないことが予想された。そこで、第2候補の「ゆるい教育ときつい教育のどちらがよいか」についてシミュレーションを行った結果、教員と学生との関わり方について再考できる見込みがあったため、第7回 FD カフェのテーマは「ゆるい教育ときつい教育のどちらがよいか」に決定した。

また、当日の総合司会は、福井君が担当することとなった。

3. 報告事項・その他

- ①当日の準備担当については、神谷から各委員、学友会員へ連絡をすることとなった。
- ②当日の司会担当者については、当日までに決定することとなった。

以上

2012年6月13日

文責：神谷

第6回 FD 委員会 議事録

日時：2012年11月29日（木）、11h30-12h30

場所：学食

出席者：

FD 委員：村上、佐藤、山本、神谷

議題：

1. 第 8 回 FD Café について
2. FD 委員会規程について
3. 2012 年度後期実技系科目アンケートについて
4. 連絡事項・その他

1. 第 8 回 FD Café について

テーマは「授業おもしろい？」に決定した。主に 1 回生を対象とし、学習意欲の向上や学習目標の共通認識を持つことを目的とすることになった。また、学友会執行部には、事前に決定事項を連絡をすることになった。

日程、会場、進行、役割分担は下記のとおり。

- 日程：2012 年 12 月 20 日（木）16 時～18 時
- 会場：遊意館 1 階多目的室
- 進行：グループディスカッション 30 分、全体ディスカッション 40 分
- 司会：佐藤委員
- 写真撮影：山本委員
- 動画撮影：倉山委員

2. FD 委員会規程について

FD 委員会規程内の FD 委員会の目的について、文言の追加をすることになった。文言については、佐藤委員が作成し、メールで全委員に配信、確認することになった。

3. 2012 年度後期実技系科目アンケートについて

2012 年度後期実技系科目アンケートを、各学部の学位授与方針に基づいた質問項目で構成することになった。原案を佐藤委員が作成、12 月 6 日（木）開催予定の自己点検評価委員・FD 委員合同委員会で確認することになった。

2. 報告事項・その他

なし

以上

2012 年 12 月 5 日

文責：神谷

第 9 回自己点検・評価、FD 委員会合同会議議事録（平成 24 年度第 7 回 FD 委員会議事録）

◇日 時：2012 年 12 月 6 日（木）、16h40-18h30

◇場 所：第三会議室

出席者：（FD委）神谷、倉山、山本

（自点委）森野、土井、森山、入佐、佐藤、木田、坂上

（総務課）新谷、大前

（短大 AL0）坂田

欠 席：なし

配布資料：

1. FD委員会規程 改編案
2. 平成 24 年度自己点検評価報告書原稿集約状況表及び文章（四大、短大）

議 案：

1. 後期学生授業アンケートの質問項目の検討
2. 後期学生授業アンケートの実施手順の検討
3. FD委員会規程改定案の検討
4. 平成 23 年度自己点検評価報告書の最終検討
5. 平成 24 年度自己点検評価報告書の文章集約状況の検討
6. 平成 24 年度自己点検評価報告書のチェック担当割り振り
7. 平成 24 年度自己点検評価報告書のリライト担当の割り振り
8. 報告事項・その他

1. 後期学生授業アンケートの質問項目の検討
2. 後期学生授業アンケートの実施手順の検討

神谷FD委員長より、後期の実習系科目授業アンケートについて、前年度の方針は活かしつつ、自由記述の記載が多すぎたこと等の反省を踏まえて改正したい。方向としては、現在検討中であるが、教務委員会等で検討中の学位授与方針や、課程編成方針の到達度を図ることができるようなものにしたい。また、学科長の承認を得たのち、実施単位を課題別に行いたいとの提案があった。実施期間は 1 月中旬に配布し、回収の後各教員で集計したものを 2 月中旬に提出していただくとの説明が併せてなされた。自己点検評価員より集計した後に具体的に数値が一目でわかる様なアンケート項目を設定すべきではや、課題別に実施するのはよいが、きちんとデータで残せるようにきっちりとした実施方法を組み立てるべきである等の意見があり、FD委員会で更に審議した後実施することとした。

3. FD委員会規程改定案の検討

佐藤FD委員より、資料の通りFD委員会規程を改正したいとの提案があった。「教員団」という文言があまりそぐわないので、「教員」としてはどうか等の意見があったが、教員全

体と、個々の教員とを使い分けているとの趣旨説明があり、修正についてはFD委員会に一任することとした。

4. 平成 23 年度自己点検評価報告書の最終検討

佐藤自己点検評価委員長より、回覧資料のとおり平成 23 年度自己点検評価報告書を取りまとめ、大学評価会議に上程の後発行としたいとの提案があり、委員へ後日PDFファイル等で配信し、チェックしたものを反映して上程することとした。

5. 平成 24 年度自己点検評価報告書の文章集約状況の検討

佐藤自己点検評価委員長より、資料に基づき現在の平成 24 年度自己点検評価報告書状況について説明がなされ、大学評価会議に状況を報告したいとの提案があり、異議なく承認した。

6. 平成 24 年度自己点検評価報告書のチェック担当割振り

7. 平成 24 年度自己点検評価報告書のリライト担当の割振り

佐藤自己点検評価委員長より、前述の平成 24 年度自己点検評価報告書リライトについて、芸術学部、大学院分をリライトし、2 月中に完了した後、三好学長に確認しそれを基に短大分をリライトしていただくとの案が提示された。短大について三好学長にリライトしていただく前に、2 月下旬に坂田ALOにチェックをお願いしたいとの提案があり、了承された。

また、リライトする前に自己点検評価委員によるチェックをしていただきたいとの提案があり、四大を入佐、坂上、木田委員でチェックすることとし、短大を森山、佐藤委員でチェックすることとした。

それぞれの基準ごとの取りまとめについては、四大は森本新学長、短大は坂田ALOで行うこととした。

8. 報告事項、その他

次の自己点検評価委員会を、2 月後半に行うことが確認された。

以上

第 8 回 FD 委員会 議事録

日時：2013 年 3 月 1 日（金）、13h00-14h00

場所：短大デザイン研究室

出席者：佐藤、倉山、神谷

議題：

1.カリキュラムマップについて

2.授業アンケート集計について

3.卒業生アンケートについて

4. その他・連絡事項

1. カリキュラムマップと授業アンケートについて

- ・ H24 年度版カリキュラムマップの作成途中段階を確認した。
- ・ 佐藤委員より、「H25 年度の授業アンケートは、H24 年度版と同じ形式（学位授与方針を質問事項とし、各授業科目で該当する項目にマルをする）とするが、教員が特別に質問したい内容については△をつけて質問することができる」という提案があり、承認された。（△マークは H25 年度版カリキュラムマップに反映するが、学生には公表しない。）

2. 授業アンケート集計について

- ・ 短大の授業アンケートは、3 / 2 7（水）午前 1 0 時より集計作業を行う予定。
- ・ 芸術学部の授業アンケートは、H24 年度後期の授業を対象とすることになった。デザイン学科が 3 / 2 2（金）にアンケートを実施、造形学科が 4 月以降にアンケートを実施する。

3. 卒業生アンケートについて

- ・ 卒業式の日に実施する。
- ・ アンケートは 4 種類（芸術学部造形学科、芸術学部デザイン学科、短大美術学科、短大専攻科）、佐藤委員が作成する。
- ・ 無記名とする。
- ・ 芸術学部は、各学科の教育目標を質問項目とする。
- ・ 短期大学部は、学習成果を質問項目とする。
- ・ 集計作業は、3 / 2 7（水）午前 1 0 時から FD 委員で実施する。集計用紙は佐藤委員が作成する。

4. その他・連絡事項

- ・ FD 委員会活動報告書の作成締め切りは 4 月末日。

以上

2013 年 3 月 1 日

文責：神谷

おわりに

2012年度FD委員会活動を振り返って

芸術学部造形学科

准教授 山本直樹

2012年度のFD委員会活動は主に次の項目をおこなった。

1. FD カフェ
 2. FD アンケート
 3. FD 研修会&ワークショップ
1. FD カフェについては一昨年度からの継続ということもあり、更なる充実ができるであろうと期待していたが、こじんまりした、印象の薄い内容になってしまった。これは、a. 一年を通してどのような流れにしていくのか、明確なテーマ設定を決めずに運営したこと b. 他の教職員、学生が多忙で、FD カフェの日時調整がうまくできなかった c. 2011 年度 FD カフェ運営メンバーである学友会が 2012 年度は参加しなかったので、教員側運営負担が大きく、活動範囲が限られてしまった d. 参加者が毎回ほぼ同じでマンネリになってしまった e. FD 委員による司会進行に難があった…等があげられる。今後についてはFD カフェのあり方の再検討は勿論であるが、テーマ設定や運営方法を考えると学生部委員会や教務委員会と連動して行っていく方向が良いのではないかと考える。そして立場による垣根を超えた話し合いの場を作っていきたい。
 2. FD アンケートについても尻窄みの感がある。従来のマークシート方式でなく、少しでも具体的な記述ができるフォーマットにしたが、これが現場の混乱を招いてしまった。これは、a. 分かりやすいマニュアルでなかった b. アンケートを実施する日時が分野、領域によって曖昧 c. 「アンケートを行うことで、自己を振り返る」ことの導きが弱く、「気づき」が徹底できなかった。2013 年度は認証評価のこともあり、アンケートについては基本に立ち返り、「きちんと行う」ことを第一義にしていきたい。
 3. 立命館大学の沖裕貴氏によるFD研修会は充実した内容だった。特に第2回目はシラバス作成という、教員にとって身近な事柄でもあり、殆どの教員が積極的に聴講していた様に見える。更にワークショップにおいてはふだん話し合う機会の少ない他学科の先生と互いの科目シラバスについて述べあうことで、授業内容や各先生の思考を見聞できるよい場であった。これこそがFD (Faculty Development)である。以上から、今後も積極的に外部の考えや状況を取り入れる場を作っていくべきと考える。

FD 委員会活動に対する所見

平成 24 年度 FD 委員 倉山裕昭

活動全体については中身の濃い研修会が開かれるなど良い結果を残したと思うが、この年度での最大の成果としては授業アンケートの刷新が挙げられる。ディプロマポリシーに沿ったアンケート項目は大学の学位授与方針と個々のカリキュラムの整合性を高める上で最良の選択だと思う。学生は各授業でのアンケートを通じて本学のディプロマポリシーを理解し、教員と価値観を共有したうえで学習することが期待できる。ただし集計作業は煩雑であり、今後改善策を講じるべきだろう。

FD カフェについてはテーマ設定に苦勞し、参加学生の減少も目立ったことからこの行事のあり方について見直しの必要を感じた。ディスカッションに対する抵抗も根強くあり、後半の全体討論では多くの参加学生はただ他人の発言を聞くのみでそれらへの態度も肯定的なのか否定的なのか判然としない、という通常の授業の合評と同じ問題が繰り返される状態だった。

平成 25 年 6 月 19 日発行

発行者：京都嵯峨芸術大学 FD 委員会

本文・編集：佐藤文郎（京都嵯峨芸術大学・芸術学部）

編集助手・レイアウト：大西葵（芸術学部メディアデザイン学科卒業生）

辛島淑子（短期大学部専攻科デザイン専攻卒業生）